

平成26年度

大磯町教育委員会 の 点検・評価

(平成25年度対象)

大磯町教育委員会

平成26年11月

目次

はじめに

1	教育委員会とは	P 2
2	点検・評価の趣旨	P 3
3	点検・評価の対象	P 3
4	点検・評価の流れ	P 4

I 教育委員会の活動についての点検・評価

1	平成 25 年度教育委員会活動一覧	P 5
2	項目別活動状況	P 6
3	項目別点検・評価（内部評価）	P 2 6
4	学識経験者による評価（外部評価）	P 3 1

II 「平成 25 年度教育委員会基本方針」についての点検・評価

1	義務教育	P 3 9
2	子育て支援	P 4 5
3	生涯学習	P 5 1
4	図書館	P 5 6
5	郷土資料館	P 5 9

III 資料編

1	関係法令	P 6 2
2	「教育委員会定例会議事録」掲載ホームページアドレス	P 6 2
3	平成 25 年度教育委員会基本方針	P 6 3

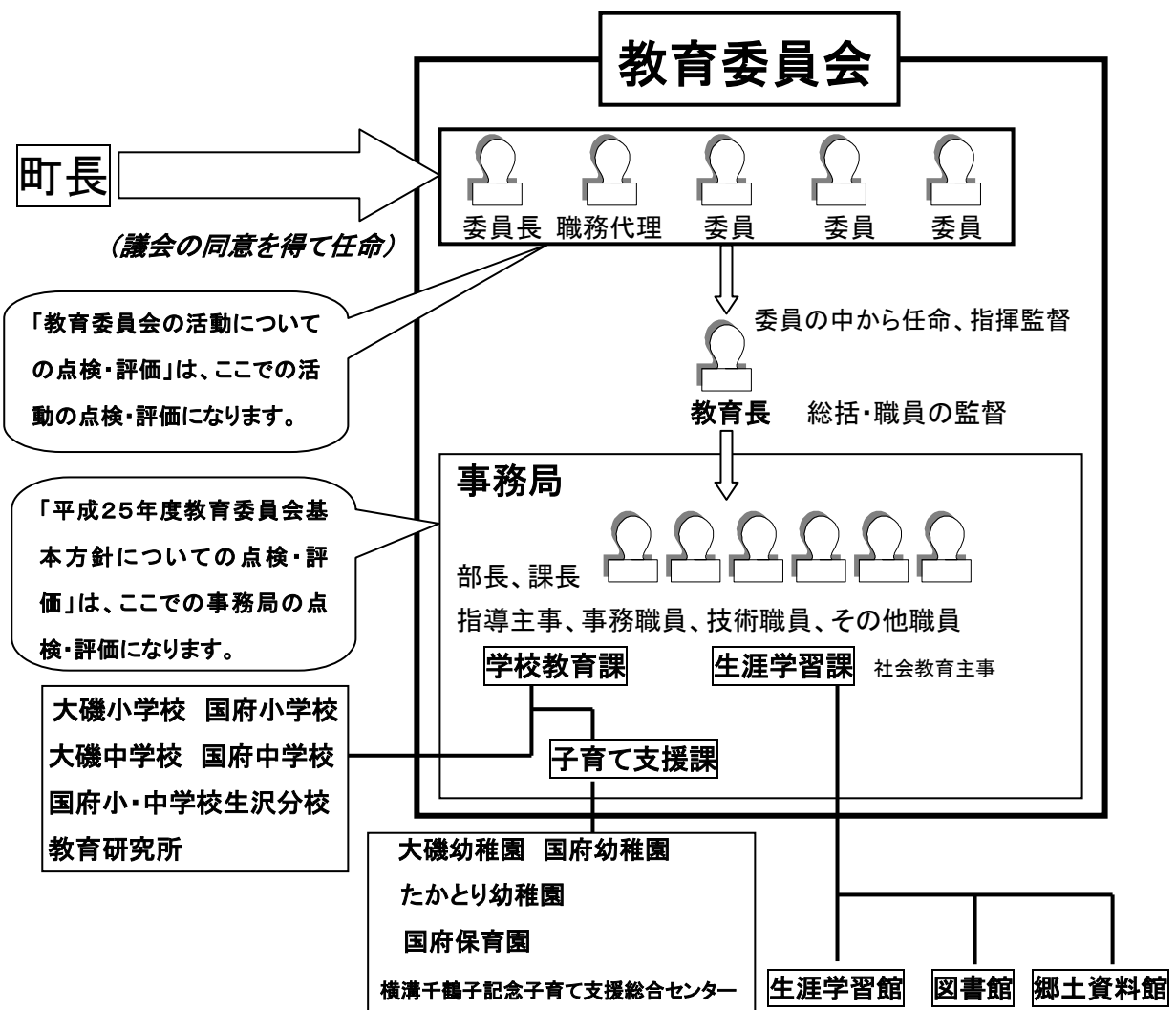
はじめに

1 教育委員会とは

(1) 教育委員会制度

教育委員会は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の定めにより、教育に関する事務を処理するため、都道府県、市町村等に設置される合議制の執行機関です。

- 大磯町教育委員会は、5人の委員から構成されています。
- 大磯町教育委員は、町長が議会の同意を得て任命します。教育委員の任期は4年で、再任されることもできます。
- 委員長は、委員の中から互選で選ばれ、教育委員会を代表し、教育委員会の会議を主宰します。委員長の任期は1年ですが、再任されることもできます。
- 教育委員会の権限に属する事務を処理するため、教育委員会に教育長と事務局が置かれています。
- 教育長は、委員長以外の委員の中から教育委員会が任命します。教育長は、教育委員会の指揮監督の下、すべての事務をつかさどります。
- 事務局は、教育長の統括のもと、教育委員会の権限に属する事務を処理します。事務局の組織は、それぞれの教育委員会の規則で定められています。



(2) 教育委員会の仕事

- ・学校その他の教育機関の設置、管理、廃止、教育財産の管理に関すること。
- ・教育委員会及び学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
- ・学齢生徒及び学齢児童の就学並びに生徒、児童の入学、転学及び退学の事務、また、幼児の入園、転園及び退園の事務に関すること。
- ・学校の組織編制、教育課程、学習指導、生徒指導及び職業指導に関すること。
- ・教科書その他の教材の取扱いに関すること。
- ・校長、教員その他の教育関係職員の研修、教育関係職員並びに生徒、児童及び幼児の保健、安全厚生及び福利に関すること。
- ・学校給食に関すること。
- ・保育の実施に関すること
- ・子育て支援に関すること
- ・青少年教育、文化財の保護及びその他社会教育に関すること。
- ・教育に係る調査及び指定統計その他の統計に関すること。
- ・教育行政に関する相談に関すること。
- ・その他「地方教育行政の組織および運営に関する法律」に規定されている教育事務に関すること。

2 点検・評価の趣旨

平成 19 年 6 月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され（平成 20 年 4 月 1 日施行）、各教育委員会は、毎年、その教育行政事務の管理執行状況について自己点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することとされました。

本町教育委員会では、法改正の趣旨が教育委員会の責任体制を明確化することにより、効果的な教育行政の推進と地域住民への説明責任を果たすことであると捉え、「教育委員会の点検・評価」を実施し、報告書にまとめました。

3 点検・評価の対象

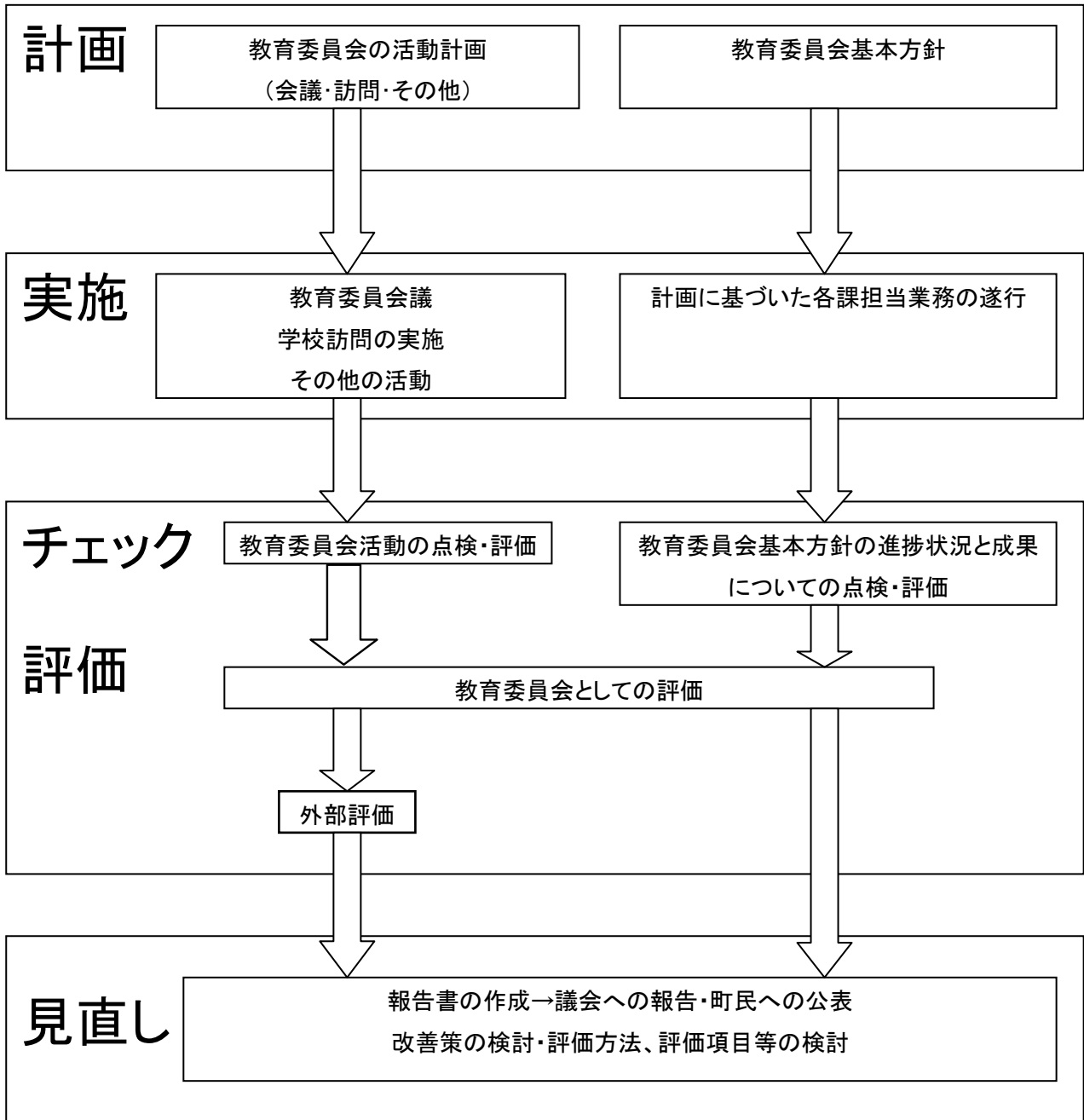
(1) 教育委員会の活動についての点検・評価

平成 25 年度の教育委員会の活動を項目別に点検し、自己評価及び課題・改善点等についての内部評価を行い、その後、学識経験者から内部評価の妥当性や指導・助言など外部評価をいただきました。

(2) 「平成 25 年度教育委員会基本方針」についての点検・評価

平成 25 年度教育委員会基本方針に掲げられている各分野の目標に対する重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策について、その実施状況を点検し、実施状況及び成果と課題をまとめ、その後、教育委員による評価を行いました。

4 点検・評価の流れ



I 教育委員会の活動についての点検・評価

1 平成25年度教育委員会活動一覧

会議名		内容等
教育委員会議	定例会	12回（毎月1回）
	臨時会	8回（9月、11月(2回)、1月、2月、3月(3回)）
事務連絡調整会議		16回（定例会・臨時会開催後及び適宜）
意見交換会・懇談会	PTA役員	1回（1月）大磯町立学校PTA連絡協議会役員との懇談会
	地域住民 保護者	3回 国府中学校「地域フォーラム」（8月3日） 国府小学校「地区懇談会」（9月2日） 大磯中学校「地域ふれあいの集い」（9月22日）
訪問	幼稚園 保育園	3回（7月、9月、2月）
	学校	4回（5月、6月、11月、1月）
	行事等	運動会・体育祭、文化祭・保育発表会等、卒業式等、生涯学習 関連事業、研究所関係事業、その他町行事等
その他の活動		神奈川県市町村教育委員会連合会総会・研修会 関東甲信越静市町村教育委員会連合会総会及び研修会 中学校給食の導入に係る教育委員会検討会

2 項目別活動状況

(1)教育委員会議

平成25年度

第1回定例会〔平成25年4月17日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第1号	大磯町郷土資料館の臨時休館について
報告事項	報告事項第1号	大磯町学校教育における子どもの体力向上に向けた取組指針について
	報告事項第2号	平成24年度大磯町立中学校の生徒進路状況について
	報告事項第3号	平成25年度学級編制及び教職員の配置状況について
	報告事項第4号	大磯町立中学校給食に関する懇話会報告書について

第2回定例会〔平成25年5月15日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第2号	平成25年6月補正予算における教育委員会予算要求について
	議案第3号	平成26年度大磯町立小・中学校で使用する教科用図書の採択方針について
	議案第4号	大磯町社会教育委員の委嘱について
協議事項	協議事項第1号	教育施設修繕計画方針（案）について
報告事項	報告事項第1号	工事請負契約の締結について
	報告事項第2号	大磯町郷土資料館運営委員の委嘱について
	報告事項第3号	ミニ企画展「新収蔵資料展」の開催について
	報告事項第4号	おはなしボランティア講座の開催について
	報告事項第5号	児童文学講演会「799の嘘」～お話づくりを楽しむ～の実施結果について

第3回定例会〔平成25年6月19日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第5号	大磯町立小学校及び中学校の施設の開放に関する規則の一部を改正する規則について
報告事項	報告事項第1号	平成25年第2回（6月）大磯町議会定例会について
	報告事項第2号	大磯町文化財専門委員の委嘱について
	報告事項第3号	春季企画展「大磯の災害ーかつてこの地で起きたことー」の実績報告について

第4回定例会〔平成25年7月17日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第6号	大磯町立小学校で使用する教科用図書の採択について
	議案第7号	大磯町立中学校で使用する教科用図書の採択について
報告事項	報告事項第1号	大磯町子ども・子育て会議について
	報告事項第2号	企画展「大磯町の多彩な貝の世界」の開催について
	報告事項第3号	ミニ企画展「新収蔵資料展」の実績報告について

第5回定例会〔平成25年8月21日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第8号	平成25年9月補正予算における教育委員会予算要求について
報告事項	報告事項第1号	平成24年度教育委員会所管決算見込みについて
	報告事項第2号	子ども議会報告について
	報告事項第3号	第1回大磯町子ども・子育て会議について
	報告事項第4号	東日本大震災復興支援事業「ミネルヴァのふくろうと明日の日本」作品展の開催について
	報告事項第5号	図書館教養講座『大磯の別荘建築』の開催について
	報告事項第6号	おはなしボランティア講座の結果について

第6回定例会〔平成25年9月26日開催〕

事項	番号	案件名
協議事項	協議事項第1号	大磯町生涯学習推進会議の設置について
報告事項	報告事項第1号	中学校部活動の夏の大会結果について
	報告事項第2号	大磯町子ども・子育て支援新制度に係るアンケート調査について
	報告事項第3号	第60回おおいそ文化祭の開催について
	報告事項第4号	秋季企画展「一村寺領 高麗寺村」の開催について
	報告事項第5号	企画展「大磯町の多彩な貝の世界」の実績報告について

第1回臨時会〔平成25年9月26日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第9号	大磯町教育委員会委員長の選挙について
	議案第10号	大磯町教育委員会委員長職務代理者の指定について

第7回定例会〔平成25年10月16日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第11号	中学校給食の導入に係る教育委員会検討会意見書について
協議事項	協議事項第1号	平成25年度大磯町教育委員会の点検・評価（案）について
報告事項	報告事項第1号	平成25年第3回（9月）大磯町議会定例会について
	報告事項第2号	東日本大震災復興支援事業「ミネルヴァのふくろうと明日の日本」作品展の実施結果について
	報告事項第3号	第12回大磯図書館まつりの開催について
	報告事項第4号	図書館教養講座『大磯の別荘建築』の実施結果について

第2回臨時会〔平成25年11月7日開催〕

事項	番号	案件名
協議事項	協議事項第1号	平成26年度教育委員会当初予算要求に係る協議について

第8回定例会〔平成25年11月20日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第11号【継続】	中学校給食の導入に係る教育委員会検討会意見書について
	議案第12号	平成25年度大磯町教育委員会の点検・評価について
	議案第13号	平成25年12月補正予算における教育委員会予算要求について
報告事項	報告事項第1号	町立幼稚園の応募状況について
	報告事項第2号	湘南軽便鉄道1世紀記念事業について

第3回臨時会〔平成25年11月29日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第14号	大磯町教育委員会教育委員の辞職の同意について

第9回定例会〔平成25年12月19日開催〕

事項	番号	案件名
協議事項	協議事項第1号	学校と警察との相互連携に係る協定書（案）について
報告事項	報告事項第1号	平成24年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」結果について
	報告事項第2号	第2回大磯町子ども・子育て会議について
	報告事項第3号	平成25年度大磯町成人式及び新成人記念のつどいの開催について
	報告事項第4号	第60回おおいそ文化祭の開催結果について
	報告事項第5号	秋季企画展「一村寺領 高麗寺村」の実施報告について
	報告事項第6号	新春企画展・横溝コレクション「馬！うま！午」の開催について
	報告事項第7号	第12回大磯図書館まつりの実施結果について

第4回臨時会〔平成26年1月5日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第15号	大磯町教育委員会教育長の選任について

第10回定例会〔平成26年1月15日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第16号	平成26年度当初予算における教育委員会予算要求について
	議案第17号	大磯町社会教育委員の定数及び任期に関する条例の一部を改正する条例について
協議事項	協議事項第1号	平成26年度教育委員会基本方針（案）について
	協議事項第2号	大磯町立小学校等の給食食材の放射性物質濃度の検査について
報告事項	報告事項第1号	平成25年第4回（12月）大磯町議会定例会について
	報告事項第2号	大磯町子ども・子育て支援事業計画の策定に向けた利用ニーズ調査（小学生用）の実施について
	報告事項第3号	平成25年度文化財消防訓練の実施について

第5回臨時会〔平成26年2月5日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第18号	平成26年3月補正予算における教育委員会予算要求について

第11回定例会〔平成26年2月19日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第19号	平成26年度教育委員会基本方針について
	議案第20号	平成25年度大磯町教育委員会表彰規程に基づく被表彰者の決定について
	議案第21号	中学校給食の導入に係る教育委員会検討会意見書の修正について
	議案第22号	平成26年度大磯町立幼稚園における休業日の変更について
	議案第23号	旧吉田茂邸再建に係る平成26年度協定書について
報告事項	報告事項第1号	第3回大磯Challenge Liveの開催について
	報告事項第2号	平成25年度大磯町成人式及び新成人記念のつどいの実施結果について
	報告事項第3号	平成25年度文化財消防訓練の実施結果について
	報告事項第4号	春季企画展「きらびやかな雛人形の世界」の開催について
	報告事項第5号	新春企画展・横溝コレクション「馬！うま！午」の実施結果について

第6回臨時会〔平成26年3月12日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第24号	大磯町教育委員会教育委員の辞職の同意について

第7回臨時会〔平成26年3月14日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第25号	県費負担教職員の任免に係る内申について

第12回定例会〔平成26年3月25日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	付議事項第26号	中地区教科用図書採択協議会の設置について
	付議事項第27号	大磯町郷土資料館の設置、管理等に関する条例施行規則の一部を改正する規則について
報告事項	報告事項第1号	平成26年第1回（3月）大磯町議会定例会について
	報告事項第2号	大磯町文化財利活用奨励交付金交付要綱について
	報告事項第3号	第3回大磯Challenge Liveの実施結果について
	報告事項第4号	平成26年度図書館蔵書点検のための休館について
	報告事項第5号	湘南軽便鉄道1世紀記念事業の実施結果について

第8回臨時会〔平成26年3月25日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第28号	教育委員会事務局職員及び教育施設等の職員の人事異動について

(2) 事務連絡調整会議

月日	項目	内容
4月17日 第1回	<ol style="list-style-type: none"> 1 大磯町社会教育委員の委嘱について 2 部活動及び学校生活全般における体罰の実態把握に関する緊急調査について 3 平成24年度卓話集会の報告について 4 かながわ学びづくり推進地域研究事業について 5 サンキッズ大磯の改修について 6 子育て支援に対する寄附金について 7 6月補正予算について 8 子ども・子育て会議の構成委員協議等について 9 クラス編制に係る保護者からの申し出について 10 ガイドボランティア協会要望について 	<p>制度の説明</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>事務局案の報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>協議・調整</p>
5月15日 第2回	<ol style="list-style-type: none"> 1 関東甲信越市町村教育委員会連合会総会について 2 美化キャンペーンについて 3 中学校運動会について 4 防災ミーティングについて 5 教育委員会の点検評価について 6 大磯小学校体育館のお披露目について 7 中学校給食検討会のスケジュール等について 8 団体からの要望について 9 町立幼稚園の施設開放について 10 東部つどいの広場の実績と予定について 11 予算の組み替えについて 12 子育て支援関連規則の改正について 13 社会教育委員との話し合いについて 14 図書館スロープ、アンケートについて 	<p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>出席の調整</p> <p>情報提供・報告</p> <p>制度の説明・日程協議</p> <p>情報提供・報告</p> <p>協議・調整</p> <p>協議・調整</p> <p>協議・調整</p> <p>協議・調整</p> <p>協議・調整</p> <p>協議・調整</p> <p>協議・調整</p> <p>情報提供・報告</p>
6月19日 第3回	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育委員会の点検評価について 2 学校警察連携制度について 3 中学校給食アンケートについて 4 生涯学習館耐震補強・改修工事設計委託の入札結果について 5 PTAと教育委員との懇談会について 6 被災地支援の後援について 7 郷土資料館燻蒸の実施について 8 子ども子育て会議の公募委員について 9 図書館空調設備等修繕工事の入札結果について 	<p>評価項目の説明・確認</p> <p>制度の説明</p> <p>協議・調整</p> <p>情報提供・報告</p> <p>協議・調整</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p>
7月17日 第4回	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育委員会の点検評価について 2 学校警察連携制度（協定（素案）について） 3 各学校の地区懇談会への参加について 4 教育研究所講演会の案内について 5 公立小中学校における土曜授業等に関する調査について 6 体力向上の取組み状況について 7 教育委員と社会教委員の懇談会について 8 郷土資料館の燻蒸終了について 9 夏休み版放課後子ども教室について 10 図書館アンケートの実施結果について 	<p>内部評価の説明</p> <p>協議・調整</p> <p>協議・調整</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>協議・調整</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p> <p>情報提供・報告</p>

月日	項目	内容
8月21日 第5回	1 国府小学校トイレ改修工事・契約変更について 2 生涯学習推進会議について 3 図書館空調修繕工事の工程について 4 生徒指導上の諸問題の現状について 5 9月・10月の学校・園行事参加予定表について 6 社会教育委員定数条例の改正について 7 大磯一周駅伝60周年記念大会について	情報提供・報告 協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告 協議・調整 協議・調整 情報提供・報告
9月26日 第6回	1 全国学力・学習状況調査について 2 小中学校コンピュータ教室の整備について 3 中学校給食の方向性（案）について	情報提供・報告 情報提供・報告 協議・調整
10月16日 第7回	1 いじめ防止基本方針について 2 平成25年度神奈川県市町村教育委員会連合会研修会の参加について 3 行政評価の実施について 4 星槎ウィークへの協力について 5 湘南軽便鉄道1世紀記念事業について 6 図書館空調工事について	情報提供・報告 協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告
11月7日 第8回	1 12月補正について 2 平成25年度予算勉強会について	事務局案の報告 協議・調整
11月20日 第9回	1 文化・スポーツ優秀者表彰の見直しについて 2 給食食材の放射能検査方法の見直しについて 3 学校警察連携制度について 4 給食アレルギー対応について 5 大磯町生涯学習推進会議の応募状況について 6 神明前遺跡の埋蔵文化財調査について 7 津波堆積物調査について 8 情報公開請求の非公開対応について 9 生徒暴行等被害事件について 10 交通事故について 11 心肺蘇生トレーニングキットの寄贈について 12 職員の訓告・厳重注意について 13 ゆめの地下道の落書きについて 14 行政評価の結果について	協議・調整 協議・調整 協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告
12月19日 第10回	1 全国学力・学習状況調査結果分析検討委員会報告について 2 中学生英文朗読大会開催について 3 文化財消防訓練の実施について 4 大磯町社会教育委員の定数及び任期に関する条例の一部を改正する条例について 5 生涯学習推進会議の公募結果について 6 大磯町立学校PTA連絡協議会研修会について 7 平成25年度人権教育講演会の実施結果について 8 平成26年度当初予算の査定状況について 9 平成26年度教育委員会基本方針決定までの流れについて 10 平成26年度学校管理職人事について 11 図書館空調機工事の報告について 12 情報公開異議申し立てについて 13 中学校の成績評価について 14 小学校の交通事故について	情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 情報提供・報告 協議・調整 協議・調整 情報提供・報告 協議・調整 協議・調整 情報提供・報告
1月8日 第11回	1 サンキッズ大磯の視察について 2 平成26年度教育委員会基本方針について 3 中学校の成績評価について 4 図書購入費の寄付について 5 3月補正予算について	協議・調整 協議・調整 協議・調整 情報提供・報告 情報提供・報告

(3)意見交換会・懇談会

①大磯町立学校PTA連絡協議会役員との懇談会

日 時	平成26年1月31日(金) 15:00～16:30
場 所	国府小学校第1音楽室
事務局等参加者	町長、政策課副課長 教育長、教育部長、学校教育課長、学校教育課副課長、子育て支援課長 子育て支援課副課長、生涯学習課長、生涯学習課副課長
大磯町立学校PTA 連絡協議会参加者	大磯中学校6名、国府中学校6名、大磯小学校5名、国府小学校7名、 大磯幼稚園4名、国府幼稚園3名、たかとり幼稚園4名
懇談会の主な内容	<p>●懇談テーマ【知恵でつくる教育現場】 【町長講話】</p> <p>○財政状況が厳しい中であって、お金を出せば解決する時代ではなくなっている。お金がなくてもできることはある。それは知恵を絞るということ。児童・生徒と教師、保護者だけでなく、地域の力が重要になる時代。知恵を出し合って、子どもたちの健やかな心と体の成長のために協働していきたい。</p> <p>○(フリートーキング)</p> <p>・学校ボランティア活動 ・通学路ボランティア ・中学校給食の検討について等</p>

②中学校地域フォーラム・地域ふれあいの集い・小学校地区懇談会への参加

日 時	平成25年8月3日(土)	
場 所	国府中学校 体育館 (国府中学校地域フォーラム)	
日 程	PTA会長挨拶	14:30～ 16:00
	大磯警察署より	
	少年補導員からテーマについて話題提供	
	テーマに基づく地区別の懇談会	
	全体発表	
	学校長挨拶	
教育委員会参加者	教育委員、事務局職員	
学校・地域等参加者	各地区役員、PTA役員、各地区保護者、区長、民生児童委員 大磯警察署員、少年補導員、保護司、学校職員等	
懇談会の主な内容	<p>○大磯警察署より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大磯署管内の少年事件の状況。数は少なく、落ち着いている町である。 ・スマホについては、子どもたちの使い方に関心を持ち、ルールをしっかりと決める必要がある。 <p>○少年補導員より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォーラムのテーマ「中学生は、今… ～中学生を取り巻くネット社会～」に関する話題提供。 ・子どもにとって、ネットやスマホ利用のメリットと問題点。事件・相談例の紹介。 ・スマホやケータイは、保護者が契約し、子どもに貸し与えるという形をとり、保護者によるペアレンタル・コントロールが必要である。 ・子どもにスマホやケータイを使わせる際のルール例を紹介。 <p>○テーマに基づく地区別の懇談会</p> <p>○地区別懇談で話題になったことを全体で共有。</p> <p>・解決策を見出すのは簡単なことではないが、課題があるという実情を共有できた。</p>	

日 時	平成25年9月2日(月)	
場 所	国府小学校 多目的教室(国府小学校地区懇談会「石神台地区」)	
日 程	参加者による懇談	14:00～ 16:00
教育委員会参加者	教育委員、事務局職員	
学校・地域等参加者	国府小学校PTA地区校外委員、国府小学校教員 国府新宿地区役員、民生委員、国府小学校保護者	
懇談会の主な内容	<p>テーマ「子どもたちを守るために」～今、私たちにできること～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校では、携帯電話教室を6年生を対象に実施予定。 ・LINEなどにより、人間関係が学校から家へと切れる時間がない。 ・ゲームでもネットにつながってしまうので、5,6年生対象の携帯電話教室では遅いのではないかと。年齢に合わせた低学年からの話や指導が必要。 ・ネットの怖さを知るような疑似体験をさせたほうが良い。 ・今日の出席者は関係者が多いが、保護者がもっと参加するところで一緒に議論したい。 ・「ガーディアン」と子どもたちが一緒になってやるのが大事。子どもが体験すること。子どもを地域に引っ張り出したい。 ・親子の関わり、親子で話し合う時間が大事だが、親子の会話が少ない。 ・目くばり、声かけが大事。最初は挨拶しても返事をしてくれないが、何回もしていると返してくれる。 ・登下校時が危ないので、子どもSOSなどを全ての通学路に対応してもらったほうが良い。 ・地域にやってほしいことなどのニーズをもってきてもらい、このような会に参加してもらえれば良いのではないかと。 ・(まとめ)ネット社会を否定するのではなく、子どもの判断力を養う教育が必要であり、何気ない声かけなどが顔の見える関係づくりとなり、地域で子どもを見守る力となる。 	

日 時	平成25年9月22日(土)	
場 所	大磯中学校体育館(大磯中学校地域ふれあいの集い)	
日 程	PTA会長挨拶	14:30～ 16:00
	中学校教員から話題提供	
	グループ別懇談会	
	教頭挨拶	
教育委員会参加者	教育委員、事務局職員	
学校・地域等参加者	各地区役員、PTA役員、各地区保護者、民生児童委員 保護司、青少年補導員、学校職員等	
懇談会の主な内容	<p>○「子どもの夢の育て方」について話題提供(大磯中学校教諭)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢をかなえられる人はわずかでも、追いかける事は全員ができる。 ・本気で追いかけた夢は、かなわなくても何かを与えてくれる。 ・昔追いかけた夢が、後から自分を助けてくれる。 ・自分自身が夢を持っていないと、子どもたちに夢を持つ大切さを伝えられない。 <p>○グループ別懇談</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「息子が、反抗期なのか変わってきた。親しい友だちも、やんちゃな子が多いようだ。母親が学校に来ることを嫌がる。」 ・「ゲームをやっている姿が、「悪」に見えてしまう。そればかりやっているように思えて、つい怒りたくなる。」 ・「ケータイを欲しがる。メールがしたいという。特に必要な生活ではないと思うが、SNSでのトラブルなどが心配。」 ・むしゃくしゃする気持ちをうまく発散できる場(部活など)があるとよい。 ・親が子に対して絶対にしてはいけないと思っているのは、友だちについて批判をすること。 ・ルールや約束は、大人(親)が考えて決めることが多くないだろうか。信頼関係の中でよく話し合っ、子どもに自分で約束を考えさせたい。 	

(4) 訪問

① 学校・幼稚園訪問

訪問学校・園名	国府中学校	
日 時	平成25年5月15日(水) 13:20 ~ 16:00	
日 程	開会	13:20
	授業参観	13:30~14:20
	職員との懇談	14:40~16:00
	閉会	16:00
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	校長、教頭、各担当教員	
懇談会の主な内容	<p>【担当者から教育活動の概要説明】</p> <p>① 教育課程について…若い先生が入り、活気が出ている。重点目標の可視化を図る。 ② 学校研究について…町の学びづくり研究事業を受け、小学校との連携を研究でも進めていく。 ③ 各学年及びふれあい学級の生徒の様子 [1年] 生徒の良さを認めて伸ばしていきたい。 [2年] キャンプ等を利用し、協力できる集団づくりを進めたい。 [3年] 落ち着いたスタートを切ることができている。あたたかな人間関係づくりを働きかけていく。 ④ 教育相談関係・生徒指導について…職員のネットワークで生徒の話を聴くようにしたい。 ⑤ 健康面について…「クラスが楽しい」「学校が楽しい」という声が聞こえてくる。</p> <p>【懇談】</p> <p>◇ 先生にゆとりが出ている雰囲気を感じる。今まで目を向けられなかったことにも目を向けられるようになってきているのではないかと安心した。 ◇ 落ち着いて授業を受けている様子を参観でき、ほっとした。 ◇ 先生の意欲が生徒に伝わっている。先生が自分の言葉で語りかける授業は、生徒も集中していた。 ◇ 職員の連携により、学校運営がプラスに向かうと思う。 ◇ 学力差が見える。授業が苦痛な生徒もいるのではないかと。 → 学力差はある。少人数指導や補習により対応している。少人数指導は1クラスを2クラスに分けているが、理想は3クラスである。教員数の関係で、そこまでは対応しきれない。 → 学習支援室で個別対応ができる体制をつくっている。 → 九九を覚えていなくても答えが出てしまう社会であり、社会が求めているものは変化をしてきている。学校では積み上げの大切さ、手でやることの大切さを伝えていく必要がある。 ◇ 先生を見て、よく話を聞いている。私語が少ない。 ◇ 3年の保護者の関心は内申点である。評価について子どもや保護者に丁寧に伝えるようにお願いしたい。 → 授業ではどの先生も伝えている。教科面談も実施しているので、疑問や相談があるときには利用してほしいと思っている。 ◇ いじめ撲滅スローガン、職場体験、国際福祉委員会の活動について聞きたい。 → 平成24年度の生徒会でいじめ撲滅の宣言を採択した。本年度も各教室に掲示した。 → 職場体験は1年生で実施している。福祉施設としては、恒道園を訪問している。 → 昨年度、国際委員会と福祉委員会を統合した。バルマークやエコキャップの回収を行っている。 ◇ 姉妹都市との関係が発展できるとよいと思う。 ◇ 中学校給食について、個人の考えで構わないので率直な意見を聞きたい。 → 二宮の中学校で学校給食の経験があるが、弁当のメリットはカリキュラムの組みやすさである。昼がゆったりしている。また、給食は油っぽく、食材も決してよくはなかった。 → 中学校給食を実施する予算があるならば、その分をほかの教育予算に充ててほしい。 → 給食費の未納者対応に苦労したことがある。中学校給食のメリットは考えにくい。 → 食物アレルギーがある生徒への対応に不安がある。 → 生徒にも教師にも余裕がなくなると思う。 → 全国的な実施率を考えれば、やろうと思えばやれるものではある。一律に給食にしてしまうのではなく、保護者の多様なニーズに応えられるシステムがよいのではないかと考える。</p>	

訪問学校・園名	国府小学校	
日 時	平成25年6月19日(水) 12:30 ~ 16:30	
日 程	給食試食	12:30~13:00
	開会・懇談①	13:10~13:40
	授業参観	13:45~14:30
	懇談②	15:00~16:30
	閉会	16:30
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	校長、教頭、全教職員	
懇談会の主な内容	<p>【懇談①】 ○ 学校長及び担当より学校の教育計画について説明 ・ 学校研究は中学校と連携し、学びづくりを意識しながら進めていく。 ・ さまざまな支援が必要な児童について、実態把握調査を行い教職員全員で共通理解をして対応している。 ・ 「友だち関係アンケート」を年間8回実施することとした。形骸化しないように取り扱う。</p> <p>【懇談②(グループ別懇談)】 ・ オープンスペースについては、メリットとデメリットがある。今ある環境をどのように活用していくかという意識で教育活動を進めていくが、いずれは教室部分とオープンスペースを可動式の壁で仕切れるとよい。カーペットは衛生上の問題があり、床材についても検討する必要がある。 ・ 家庭との問題については、1学期に家庭訪問と個別懇談を実施し、早い時期に2度会って話ができるのはよい。さまざまな問題については、担任が一人で抱え込まず、教育相談コーディネーターや学年と一緒に対応するようにしている。 ・ 授業については、言語活動やしつけを意識されていることが伝わってきた。(委員)</p> <p>・ 図書購入予算がついて蔵書が充実しているが、書架も購入してほしい。給食室の老朽化対策をお願いしたい。 ・ 間仕切り家具のロッカーは高さがあるため地震のときの安全性に不安がある。収納を増やすことと併せて検討してほしい。 ・ 学力向上のために、少人数指導は低学年から充実させたい。指導協力員の配置を継続してほしい。 ・ 英語教育については、子どもたちが楽しんでいる。AETの配置は継続してほしい。評価が難しい。 ・ 仕事が多く忙しいため、退勤時刻はいつも遅くなる。仕事を精選していく必要性を感じている。</p>	

訪問学校・園名	国府保育園	
日 時	平成25年7月17日(水) 13:15 ~ 14:45	
日 程	開会	13:15
	保育参観	13:15~13:45
	職員との懇談	13:45~14:45
	閉会	14:45
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	園長、園長補佐、各担当職員	
懇談会の主な内容	<p>【保育実践について園長・担当職員から説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食による体力向上、食事マナー、食育は保育園ならではのもの。はだし保育、マラソン、体操教室、リミック、「ぞうきん体操」などで体力向上を目指す。 ・幼稚園の研修へ参加、幼稚園の見学などで職員の研修を充実させていく。 ・食育として、その日の給食食材の写真を提示している。 ・たかとり幼稚園や国府幼稚園と交流を実施している。 <p>【懇談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇食育の効果は？ →食べることへ意識づけができています。献立にも興味を持ち給食を残さないようになっている。 ◇はだし保育の効果は？ →体操教室の先生に踏ん張る力や動作が違うと言われる。就学に向けて上履きを履く指導も必要かと考えている。 ◇「ぞうきん体操」を始めて子どもの変化が感じられるか？ →しぼるという動作が少しずつできるようになってきた。何度も繰り返すことで、ぞうきんがけも上手に続けられるようになってきた。 ◇今日は欠席が多いようだが？ →手足口病・おたふく・急な高熱・ヘルパンギーナなどが小流行している。 ◇親との接点は、送り迎えのときと保育記録でしていると思う。親は安心するし、先生の一生懸命さが伝わるので、大変な部分だと思うががんばっていただきたい。 →保育日記のように詳細に書いて下さる方もいる。自分が親だったらと考えて接するようにしている。ボードでのお知らせで様子がわかると言ってもらえる。 ◇最も手のかかる時期で大変なお仕事だが、日々の成長を見ていくことが楽しみでもあると想像する。皆で情報を共有しながら保育を進めてほしい。 ◇子どもたちが本当にかわいい。子どもたちが譲り合い、思いやりを持ち合っていた。人の一番大切な時期。安心安全を守るために、これからも課題に目を向けて行ってほしい。 ◇作品、掲示物、名前など、先生方のきめ細かい配慮がいろいろなところに見られる。 ◇中学校の教員にも保育園で研修をしてもらいたいと思う。 ◇教室によって風の入り方が違うと感じた。2階は暑い。子育て支援課に要望を出してください。 	

訪問学校・園名	国府幼稚園	
日 時	平成25年9月26日(木) 13:15～15:30	
日 程	開会	13:15
	保育参観	13:20～14:00
	職員との懇談	14:20～15:30
	閉会	15:30
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	園長、教頭、全教員	
懇談会の主な内容	<p>【保育実践について説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をしよう:挨拶隊の活動を3年前より行っている。年少や保護者に広がってきた。 ・しっかりと体を動かし元気に遊ぶ:1日合計60分体を動かすことを目標に、家庭にも呼びかけをしている。 ・幼・保・小の連携:交流の機会が増えている。先生同士の交流もしている。 ・食育:野菜作り(トマト・さつまいも・イネ) (年少) ・大勢で遊ぶ楽しさや自分の好きなことを見つけて活動する楽しさが分かってきた。クラスの一員という感覚、やさしい気持ち、年長児へのあこがれが生まれている。 (年中) ・運動会を通して力を合わせることの楽しさや達成感を感じていたようだ。年少にはやさしく思いやりをもって接し、年長にはあこがれの気持ちを持っている。 (年長) ・年度当初は個々の遊びが多くトラブルもあったが、成長して子どもたちの中で解決できるようになった。3学年合同のなかよしランチタイムやお散歩で、年下への思いやりが育ってきている。 <p>【懇談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇人数の少ない先生の手で見た時、ヒヤリハットしたことは? →毎月職員が安全点検をしている。保護者と一緒に来た未就園児が遊具に近づき危ないことがあった。ブランコにつかまることを忘れて落ちることがある。トンボを追いかけて夢中になっているときなど、こいでいるブランコに近づいてしまう。 ◇挨拶隊はどのように活動しているか? →ピロティに台を置き、5人ずつたすきとかんむりをして9時から挨拶をする。少し早めに登園し、保護者も一緒にやっている。 ◇人なつこく、自己紹介をしてくれた。1つの行事を通して大きく成長するのは中学生も同じ。先生がほめ、フォローをしつつ、親にも伝えながら相乗効果で伸ばしていく。 ◇様々な面を持つ子どもたちである。見方を変えて光る場所を見つけてあげてほしい。 ◇低年齢では危険が多いのは当たり前。成長するにつれトラブルや危険回避の力がつく。 ◇失敗をうまくフォローし、うまくいったことを褒めることで成長する。 ◇図書室の本が古そうだが、購入はどのようにしているか? →保護者からの寄贈が少しある。(2年に1回程度PTAの修了記念品として。)その他、保護者からの徴収金の中から購入している。 ◇1学期の反省や研修は? →1学期の反省はクラスごとに行った。学校評価の取り組み状況の話し合いも実施した。夏休みに県や町の研修がかなりある。 ○園によって規模や地域性、先生の資質などの違いがある。国府幼の先生は子どもに対して肯定的に温かく接していて、園全体の一体感がある。自分のクラスをどう育てたいかをきちんと持って育てている。支援の必要な子への先生の接し方を子どもたちも見て学んでいる。支援の必要な子の保護者は運動会を不安がっていたが、最後まで参加できた。悔しいことも大切な経験。いろいろな経験をさせることは大事なことと思っている。 ◇有事の際に動けるよう、日頃から防災マニュアルの確認をしておいてほしい。また、リスクマネジメントをしっかりとしてほしい。途中経過でも、まず報告すること(園長・教頭→教委へ)。困難を一人で抱えないように。 ○支援が必要な園児については、皆で情報交換し、対処を考えながらなんとかやってきた。落ち着いてはきたが、まだ不安がある。幼稚園への支援員の増員をお願いしたい。(子育て支援課)次年度の体制づくり、予算との兼ね合いもある。学校教育課と調整して子育て支援課として対応できるようにしていきたいと考えている。 	

訪問学校・園名	大磯町立国府小・中学校生沢分校	
日 時	平成25年10月16日(水)	
日 程	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 10px; border: 1px solid black;"> 台風接近のため中止 </div>	
訪問者		
学校・園懇談会 参加者		
懇談会の主な内容		

訪問学校・園名	大磯町立大磯中学校	
日 時	平成25年11月20日(水) 13:10～16:30	
日 程	開会	13:10
	授業参観	13:25～14:15
	学校教育活動の概要説明	14:25～15:15
	職員との懇談	15:30～16:30
	閉会	16:30
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	校長、教頭、総括教諭、各グループリーダー、養護教諭、事務主査	
	<p>【学校教育活動の概要説明】 ①教育計画・学校運営について ②学校の概要について…校舎が老朽化している。 ③教育課程について…学校研究のテーマを「よくわかる楽しい授業をめざして」とし、基礎・基本、言語活動の充実、教材開発に取り組んでいる。</p> <p>【懇談】 ◇これまで長い間、大磯中学校の様子を見てきているが、最も落ち着き、清潔な感じを受ける。教員による指導や努力の成果であると考え。今後も信頼される学校づくりのため、ご尽力いただきたい。 ①各学年より (1学年)学校生活に慣れ、元気に生活している。8割以上の生徒が部活動に参加している。(個別ケース3件について報告) ◇ 中学校給食が実現するまで、弁当を持って来られない生徒への補填ができたらいと考えている。 → 安心してお弁当の時間を迎えられる手立てができるのであれば、検討をお願いしたい。 (2学年)素直で元気のいい子どもたちである。(個別ケース3件について報告) ◇ 親の役割を果たせていないケースがある。近所や民生委員の手を借りられないものか。 → 行政援助を自ら切ってしまうことがある。 (3学年)落ち着いたスタートを切ることができている。行事が大好きで、熱が入る。部活動を引退し、進路に向けて動き出している。(個別ケース3件について報告) ◇ 文化祭時の気になる生徒の見守りに、先生が努力している姿を見た。 ◇ 保護者の中に、「テストを作る先生のクラスのテスト結果が良い」とか「国語の音読テストのやり方が不安である」といった声がある。 ◇ 学校がかかわらないと、その家庭の改善に向けた対応ができないこともあり、教員は学習指導だけでなく、生活指導にも多くの労力を注いでいて、頭の下がる思いである。 ②生徒指導について ・家庭内の問題がいくつかあるが、学校生活における指導上の問題はない。 ・教員の目での見回り、ライフチェックアンケートの実施を行っている。 ・生徒とのコミュニケーションをとるようにしている。 ・学校外のトラブルとして、交通事故、不審者、近隣市町近くでの他校生徒と思われる生徒との事案等が発生している。 ◇ 事故・事件に遭遇したときの対応を教える必要がある。 ◇ 夜間外出にはリスクがある。 ◇ 4回目の訪問となったが、教室のロッカーがきれいで、牛乳パックも整理されている。落ち着き、いい学校になっていると感じた。 ◇ だめなことに対しては、しっかりだめと言ってほしい。 ◇ 日常生活の基本的部分の再確認が大事である。 ◇ 家庭との連携により、一人一人の生活を改善できるとよい。 ◇ 何かあったときの共通理解をし、対応が素早くできるようにしておきたい。</p>	

訪問学校・園名	大磯小学校	
日 時	平成26年1月15日(水) 12:20 ~ 16:50	
日 程	給食試食	12:20~13:00
	開会・挨拶・教育活動の概要説明 I	13:05~13:35
	授業参観1(モジュール)	13:35~13:50
	授業参観2(5校時)	13:55~14:40
	教育活動の概要説明 II	15:05~15:30
	職員との懇談	15:40~16:40
	閉会	16:40
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	校長、教頭、各担当教職員	
懇談会の主な内容	<p>【担当者から教育活動の概要説明 I】</p> <p>① 開校140周年を迎えた学校の教育活動について概要説明</p> <p>② 学校評価アンケートの結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童アンケートは、各項目で評価が上がっている。 ・ 子どもたちの体力増進については、保護者・教職員ともに課題ととらえている。 <p>③ 児童の支援体制及び教育相談について</p> <p>【担当者から教育活動の概要説明 II】</p> <p>④ 学校保健委員会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10月に開校140周年記念講演会を「いのち」をテーマに実施し、これを第1回学校保健委員会として位置づけた。 <p>⑤ 特別活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マスコットキャラクターの着ぐるみを作成し、キャラクターを活用した挨拶運動や児童朝会が定着している。 <p>【懇談】</p> <p>◇ 教育活動全体がいい方向に変わっていると感じる。児童会活動が子どもの意見を尊重して具現化されている。外国語活動のえいごリアンは文法的には難しい。子どもの反応や状況はどうか。若い先生が多い。頼りないかと思って見てみると、しっかり授業をしていて、先輩の教員に育ててもらっていると感じる。</p> <p>◇ 道徳の授業を中心に時間をかけて参観した。いじめやいのちや一人一人を大切にするなどを考えさせている。教職員アンケートにある「本校では、一人ひとりを大切に、子ども同士の良い人間関係づくりを図った指導に取り組んでいる」とあるが、どのような取り組みがされているか。</p> <p>→ えいごリアンは、文法的には確かに難しいが、子どもたちは楽しみにしている。</p> <p>→ 職員集団として、皆で一つのものに取り組む雰囲気がある。いのちについて考える学習も、大きな骨組みがあり、その中でさまざまな教員が肉付けする実践を行っている。道徳の時間は、自分のこととして考えさせる時間をつくり、考えたことを共有するようにしている。</p> <p>→ 140周年の航空写真のデザインを各クラスで話し合った。自分たちの考えが反映されているという思いがあると思う。大磯小学校は委員会活動が活発で、児童が活躍できる場がある。達成感があり、責任感を継承していくという伝統になっているように感じる。</p> <p>→ 若い先生でも、物怖じすることはない。自信を持っていて、教材研究も熱心に行っている。経験が少ないという点で、先を見通す力は不足しているかもしれない。職員仲間として、一緒により良くしていきたいと考えている。</p> <p>◇ 体育館の改修が終わり、落ち着きが戻ってきたと感じる。</p> <p>◇ 2年生になると、できることとできないことの差が出始めていると思う。</p> <p>◇ 全国学力・学習状況調査の結果は、秋田では子ども一人一人を細かく見ることができ環境があるなど、学校規模によっても違いがあるのではないかと。</p> <p>→ 秋田では、一人一人の子どもに手をかけられる環境があるほか、地域に学校を支える力がある。教員を増やす、地域力を高めることは必要だと思う。現状では、一斉指導の中で工夫して個別対応をしている。仲間同士でフォローし合う学習も行っている。</p> <p>◇ 来年度はICT環境を改善し、タブレットPCの導入も考えているので活用してほしい。</p> <p>◇ 大磯小学校は、以前より授業づくりの発信校という印象がある。授業づくり・仲間づくりを進めると、いじめ防止にもつながると考える。学ぶことが、人間関係づくりにつながる。</p> <p>◇ 学ばざる者、教えるべからずという言葉がある。今後も研鑽を積んでいきたい。</p>	

訪問学校・園名	大磯幼稚園	
日 時	平成26年2月19日(水) 13:15 ~ 15:20	
日 程	開会	13:15
	保育参観	13:20~14:00
	職員との懇談	14:20~15:20
	閉会	15:20
訪問者	教育委員4名、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	園長、教頭、全教員	
懇談会の主な内容	<p>【大磯幼稚園の保育実践について説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より異年齢児との交流の研究を進めてきた。日々の活動の中で交流を取り入れている。また、体力づくりの向上にも努めている。 ・あいさつ等を通して地域とのかかわりを持つように努めている。PTA活動も積極的に取り組んでいる。今年度は園長との懇話会を開いたり、園児の活動の様子を保護者に伝えるために、写真を掲示したりしている。 ・担任より各クラスの様子について説明 <p>【懇談】</p> <p>◇外の掲示物を見ると園での活動の様子がよくわかる。保護者へ知らせるにはとてもいい方法である。保護者も安心し、幼稚園への安心にもつながると思う。園長との懇話会もコミュニケーション作りになっている。</p> <p>◇子どもたちからあいさつがあり、上履きと下履きの使用場所の区別もしっかりしていて感心した。</p> <p>→懇話会は保護者からの要望があったもの。保護者の思いを知り、受け止めていくことが大事である。これからも続けていきたい。</p> <p>→写真の掲示は、降園時に口頭で伝えてもなかなか伝わらない場合もあるので、視覚で伝えている。写真だと子どもたちの表情も一緒に伝えられる。保護者にはできるだけ早く伝えるようにしている。</p> <p>→園児168名で保護者もいろいろな方がいる。どういう目標を持ってやっているかを示していけるよう努力している。</p> <p>◇保育園から異動された先生は、幼稚園と保育園の違いはあるか。</p> <p>→保育園は担任を持っていても、幼児組と一緒に見るようなところがあった。保護者とも毎日顔を合わせることはなかった。幼稚園の方が時間が決まっているので、クラスの活動はやりやすい。</p> <p>◇幼稚園のお弁当の様子を教えてください。</p> <p>→子どもが喜ぶように保護者の方は工夫をしている。お弁当の時間は、子どもたちがいちばんリラックスしているようである。</p> <p>→小学校の給食の様子も小学校から話を聞いているので、子どもたちには時間で食べ終わるように園でも努めている。</p> <p>◇グラウンドの芝生化について、土のグラウンドと比べてどうか。</p> <p>→グラウンドは霜が溶ける溶けるとぬかるんでしまうので、芝生もいいとは思いますが、管理が大変だと思う。</p> <p>◇就学にあたって年長児で配慮が必要な子どもはいるか。</p> <p>→園長と担任で把握するようにしている。スクールアドバイザーとの連携もある。</p> <p>◇ひらがななど字をしっかりと書いている子がいるようだが、園で指導しているのか。</p> <p>→指導はしていないが、遊びの中で触れるようにしている。手紙交換などで興味を持っているのではないか。</p>	

②行事等

行事名	月日(曜)	対象園・学校
運動会・体育祭	6月1日(土)	大磯中学校
	6月8日(土)	国府中学校
	9月20日(金)	国府小・中学校生沢分校
	9月21日(土)	国府保育園・国府幼稚園
	9月28日(土)	大磯・たかとり幼稚園
	10月12日(土)	大磯・国府小学校
文化祭・保育発表会等	10月19日(土)	大磯中学校文化祭
	10月19日(土) ～20日(日)	国府中学校文化祭
	11月23日(土)	おおいそ学園(生沢分校)収穫祭
	12月7日(土)	国府保育園お楽しみ会
	12月12日(木)	大磯・たかとり幼稚園保育発表会
	12月13日(金)	国府幼稚園保育発表会
卒業証書授与式 ・修了証書授与式	3月12日(水)	国府小・中学校生沢分校
	3月13日(木)	大磯・国府中学校
	3月13日(木)	国府幼稚園
	3月14日(金)	大磯・たかとり幼稚園
	3月20日(木)	大磯・国府小学校
	3月22日(土)	国府保育園
生涯学習	6月2日(日) ～23日(日)	ミニ企画展「新収蔵資料展」
	7月20日(土) ～8月31日(土)	企画展「大磯町の多彩な貝の世界」
	9月8日(日) ～29日(日)	東日本大震災復興支援事業「ミネルヴェアのふくろうと明日の日本」作品展
	10月12日(土) ～11月30日(土)	秋季企画展「一村寺領 高麗寺村」
	10月19日(土) ～20日(日)	おおいそ文化祭
	11月17日(日)	大磯図書館まつり
	12月8日(日) ～23日(月)	湘南軽便鉄道1世紀記念事業
	1月5日(日) ～26日(日)	新春企画展・横溝コレクション「馬！うま！午！」
	1月13日(月)	成人式・新成人記念のつどい
	2月22日(土) ～4月6日(日)	秋季企画展「きらびやかな雛人形の世界」
	3月16日(日)	大磯Challenge Live
その他行事等	8月28日(水)	大磯町・二宮町教育研究所教育講演会
	11月2日(土)	小・中学校音楽会
	11月9日(土) ～10日(日)	子ども作品展
	1月25日(土)	中学生英文朗読大会
参加体制	教育委員・事務局職員	

(5)その他の活動

①神奈川県市町村教育委員会連合会総会・意見交換会

日時	平成25年4月10日(水)
場所	横須賀市 横須賀美術館ワークショップ室
参加体制	教育委員長、事務局随行
内容	<p>11:15～11:35 【総会】</p> <p>1)平成24年度事業報告及び収支決算</p> <p>2)役員改選</p> <p>3)平成25年度事業計画(案)及び収支予算(案)</p> <p>4)その他</p> <p>11:40～13:00 【意見交換会】</p> <p>・津波対策 ・教育委員会制度 など</p>

②関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会総会及び研修会

日時	平成25年5月31日(金)
場所	茨城県つくば市 つくば国際会議場大ホール
参加体制	教育委員2名、事務局随行
内容	<p>13:00～13:25 開会式</p> <p>13:30～14:00 【総会】</p> <p>1)平成24年度事業報告・会計決算</p> <p>2)平成25年度事業計画(案)・会計予算(案)</p> <p>3)会長、副会長及び監事の選出・理事の選任</p> <p>14:15～15:35 【研修会】</p> <p>1)文部科学省行政説明</p> <p>※学校教材及び学校図書館の整備、教職員定数の改善等、公立学校施設整備</p> <p>・説明者:文部科学省初等中等教育局 財務課教育財政室長 丸山洋司氏</p> <p>2)記念講演</p> <p>・演題:「新しい世界を開くイノベーション(技術革新)-私の歩み」</p> <p>・講師:横浜薬科大学学長・(財)茨城県科学技術振興財団理事長 江崎 玲於奈 氏</p> <p>15:40～15:50 閉会式</p>

③神奈川県市町村教育委員会連合会研修会

日時	平成25年11月1日(金)
場所	横須賀市役所 本庁舎正庁
参加体制	教育委員3名、大磯小学校養護教諭、事務局随行
内容	<p>13:45～14:00 開会・挨拶</p> <p>14:00～15:30 【研修会】</p> <p>・演題「食物アレルギーの基礎知識と緊急時の対応」</p> <p>・講師:国立病院機構相模原病院臨床研究センター アレルギー性疾患研究部長 海老澤 元宏 医師</p> <p>15:30～15:45 質疑応答</p> <p>15:45～16:00 閉会・事務連絡</p>

④中学校給食の導入に係る検討会

開催日	議 題
第1回 6月12日	1) 中学校給食導入検討・協議スケジュールについて 2) 中学校給食導入検討・協議項目について 3) 中学校給食に関するアンケート(案)について 4) 中学校給食・先進地視察について
第2回 6月27日	1) 先進地視察①(センター方式) ・二宮町学校給食センター ・二宮町立二宮西中学校
第3回 7月2日	1) 先進地視察②(デリバリー方式) ・愛川町立愛川中原中学校
第4回 7月10日	1) 先進地視察③(自校方式) ・開成町立文命中学校 2) 中学校給食実施方式の比較検討について
第5回 7月30日	1) 中学校給食に関するアンケート結果について 2) 給食方式による施設整備費・維持管理経費について
第6回 8月21日	1) 検討報告書の構成(案)について 2) 給食方式の課題等について 3) 中学校給食に関するアンケート結果について
第7回 9月18日	1) 中学校給食に関するアンケート集計結果について 2) 給食方式等について 3) 検討会意見書(素案)について 4) 中学校給食の方向性について

3 項目別点検・評価（内部評価） 平成25年度対象

(1)教育委員会議

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

【目的】 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」及び「大磯町教育委員会規則」に則り、大磯町の教育行政が円滑に運営されるために必要な事項を協議する。			
評価項目	評価	評価の主な根拠	課題に対する改善点等
①教育委員会議が、法令等に沿って、その開催にあたり会議の予定、議案を周知し、議事内容を公開するなど、適切に実施されたか	A	法令に則り年度初めに計画された定例会は公開により開催され、臨時会も必要に応じて適宜開催された。その開催にあたり会議の予定・議案を町広報誌やホームページを通じて周知し、会議結果の議事内容も公開した。	教育委員会議は予定や議事内容の公開に努め、関係者のみならず地域住民とも問題点の共有と理解を今後も図らなくてはならない。また、会議結果は早期に公開すべきである。
②教育委員会議が、適正な意思決定機関になっているか	A	発議者から提案された付議事項は慎重に審議され、特に複雑な案件は事前の勉強会を設ける等、十分に議論し適切な意思決定ができたと考える。また、協議事項の議論においては、方向性を示すなど適切な対応を行なった。	様々な課題を審議し適正な方向性を示すに当たり、速やか、かつ公平な情報収集と資料の趣旨確認など、事務局からの情報等だけでなく、委員自身の積極的な情報収集と勉強に努める。
③教育委員会議が、教育行政における今日的な課題に対応しているか	A	幼児虐待防止として様々な講座を開催、いじめや体罰問題は学校関係者と連携し解決に向けて迅速に対応し、その後の防止に努めた。小中学校の給食は現状の把握に努め対応を図る一方で、施設改修については町の財政的課題の影響を受け、適正な環境の確保に向けて、緊急性や重要性などを考慮して柔軟な対策が必要である。	待機児童対策と子育て支援事業充実のため、平成27年度より実施される新制度準備の取り組みが急務となる。又、いじめや体罰防止・体力向上など、学校が抱えている課題を把握し、更なる努力で継続的な対応をしていく必要がある。さらに、各課題への解決の仕方や考え方を十分話し合うよう努める必要がある。 前年度、外部評価より指摘のあった「見える化」については不十分であり、具体的な対策について検討していく必要がある。
④教育委員会議が、地域住民にとって身近なものとなっているか	A	教育委員会議の議案によっては傍聴希望者があり、誰もが傍聴できるオープンな会議と言える。また、PTA連絡協議会や地区懇談会等に積極的に参加し、保護者との交流を通じ、地域における教育のあり方に力を注いできた。それにより、教育委員会活動等の情報発信、ニーズや課題の共有に努めるとともに、教育行政へのフィードバックに努めた。	保護者を中心とした地域住民との交流を通じ、地域における教育のあり方に力を注いできた。今後はどのようにその内容が反映されるのか課題が残る。 また、決定のプロセスがもう少しわかりやすく、公開できるように努める。
⑤教育委員会議は、地域住民・学校との交流・懇談の中から得られた課題を議題として適切に対応したか	A	各学校・園への訪問やPTA・地域住民との懇談会で提起された要望や課題については、できるだけ会議において議論し対応に努めたが、人的・物的課題に対しては他機関との調整や予算確保を要する場合もあり、多くの意見をまとめて一つの方向に導くことの困難さを感じている。	多くの意見、要望、課題の中から緊急性や重要性を見極め、順次対応する必要があるが、すべてに対応するのは事実上困難であり、ある程度の方向性が見えているなら理解を得るための努力をすれば良いと考える。予算面では町部局への働きかけを粘り強く継続する必要がある。 また、昨年度の課題が解決に至っていない。外部評価で指摘があったように委員会の取組みや体制をホームページ上で示す、連絡窓口を設置するなど、具体的に見える形にする必要がある。

総合評価	A	<p>教育委員会の職務権限に属する議案について、適切に審議し円滑に運営できた。会議が適正な意思決定機関となるために各委員が目的に沿って前向きに取り組んでいるが、喫緊の問題への対応、継続的課題の解決、今日的課題の対策について議論を一層深化させる必要がある。</p> <p>また、付議された議案について、色々な角度から議論、検討することにより正しい審議を行うことができた。</p> <p>教育委員会がより適正な意思決定機関となるためにも、速やかに情報を共有し、タイムリーに審議解決できるよう事務局と連携を図っていききたい。また、身近な存在になっているかという点については、教育委員会試みや行動が一方通行にならないよう、大磯町のための教育行政であることを踏まえ、町民の意向が反映される議論となるよう、地道な情報収集と発信を続けることが大切である。さらに、地域への見える化につき、開かれた教育委員会を目指して具体的に努めていきたい。</p>
------	---	--

(2)事務連絡調整会議

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

【目的】 教育委員会を円滑に運営するため、事前の勉強会や次回定例会議事の内容確認等を行う。			
評価項目	評価	評価の主な根拠	課題に対する改善点等
①必要に応じて、適宜、開催されたか	B	<p>継続的に検討されている中学校給食やいじめ・体罰、給食食材の放射能測定、子ども子育て新制度、学校と警察との連携制度、生徒指導上の諸課題、教育予算編成、生涯学習推進事案等は、現状について適宜、情報提供され、情報の共有化と方向性を見出し、教育委員会を円滑に進めることができた。緊急の事故や問題についても適宜、開催され、迅速な情報提供により有効な議論がなされた。</p>	<p>ハード面ソフト面、多様化している様々な課題を抱える中で、臨時の機会を設けるなど、各課題に対する協議・勉強の機会や時間を十分にとり、情報の収集と共有に一層努力し、課題解決に向けて議論を重ねる場としたい。</p> <p>成績評価や事故被害といった喫緊・重要な案件は情報収集が十分とは言えず、一部、意見の相違等が生じ課題も残る。</p>
②勉強会等を通じて、今日的な課題や必要な情報が十分得られたか	A	<p>資料や情報など事前の対応に十分な配慮がなされたことに加え、委員からも情報収集を行い、様々な案件について議論することができた。予算・教科書採択・中学校給食・子ども子育て新制度に関わる勉強会では、時間をかけて情報の共有と各課題についての一層の理解を深めることができた。</p>	
③次回の議案、テーマに関して一定の理解がなされたか	A	<p>事前の事務連絡調整会議や勉強会では、協議案件や審議案件についての情報提供により、問題点や論点の共有等、概ね理解することができた。</p> <p>突発的な事故や事件の連絡は別にしても、通常の事柄については、常に丁寧な資料として対処、処理が出来ていたと言える。</p>	<p>限られた期間で決議しなければならない課題や喫緊、重要な案件こそ事前の勉強会での十分な議論が必要であり、迅速に情報を共有し、事前学習できる環境作りにも今後も努めたい。</p>

総合評価	B	<p>所期の目的である教育委員会議を円滑に効果的に運営するため、事前の情報共有や議論を行う機会として役割を果たしていると言えるが、今日的課題や複雑化・多様化する喫緊の問題の対応には、情報の精査や不断の検討が求められる。さらに工夫して未解決の課題を残すことなく、フレキシブルな議論の場として事前学習のできる環境作りに努めるとともに、少しでも深く対応策を話し合うことが出来るよう、「参考資料」として関連資料等の充実も必要と考える。</p>
------	---	---

(3)意見交換会・懇談会

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

【目的】			
保護者や地域の方々と直接対話することにより、子どもを取り巻く様々な課題を共有し、今後の教育行政に反映させる。			
評価項目	評価	評価の主な根拠	課題に対する改善点等
①適切な時期に必要な回数実施されたか	B	<p>大磯町立学校PTA連絡協議会役員との懇談会を1回、小中学校主催の地区懇談会に3回出席し、子ども達を取り巻く様々な課題について共有できたが、いずれも8～9月の期間に集中していることから、日程的な考慮も必要であり、また会の機会もまだ少ないと感じる。</p>	<p>昨年度に比べ、今年度は保護者や地域の方々との対話の機会が少なかった。年間を通じて自由な意見交換が行われる機会を設けることが必要である。学校の事情、各委員のスケジュール等の課題もあるが、前向きに早くからのスケジュール調整が必要と思う。また、開催頻度・回数に限界があるとしても、各委員で問題や課題をまとめる作業をするなどの工夫もできるのではと考える。</p>
②参加した懇談会等で必要な課題が適切に話し合われたか	A	<p>各懇談会では子ども達の健全育成を図るテーマを設け、活発な意見交換がなされた。保護者からは、子どもの携帯機器・ネット使用の不安や子育ての悩みについて本音が語られ、地域住民からアドバイスがされる等、有意義な話し合いがなされた。</p> <p>時間的な制約がある中での会合であるので、テーマ以外にももっと様々な課題はあると考える。今後とも具体的な方策について共に検討していきたい。</p>	<p>地域の方々にとって、児童生徒を支えていただくボランティアの話は関係が深く、課題の共有が成されている。しかし、「子どもとネット社会」や「中学校給食」については地域の年配の方々には身近なテーマではなかったようである。また、開催頻度・回数に限界があるとしても、各委員で問題や課題をまとめる作業をするなどの工夫もできるのではと考える。</p>
③懇談会等を通して得られた情報やご意見をその後の教育行政に生かすことができたか	B	<p>様々な意見交換から保護者や地域の方々の思いを共有し、児童生徒に対する声かけや見守り等、地域の方々との協働による安全な環境作りに反映できたが、「教育行政にはお金がかかる」との例え通り要望通り全てがうまく行われているわけではなく、予算の立て方など優先順位も含めて、十分検討する余地は残されている。また、地区が替わっても似通った問題が毎回出されるということは、十分に生かせていないともいえる。</p>	<p>携帯機器は、必要に迫られて子どもに持たせている家庭が多い。安全に利用するため、携帯および通信機器に関するリテラシーは、学校のみならず、行政も積極的に広めていく必要がある。</p> <p>出来るだけ多方面に渡る課題解決のためには何をしたらよいか、大きな問題はあるが、目標を定めそれぞれを整理すれば十分な対応は見えてくると思える。</p>

④懇談会等により、教育委員会が住民にとって身近なものとなっているか	B	今年度の大磯町立学校PTA連絡協議会との懇談会は教育委員の出席がなく、顔を合わせて話し合う身近なものとならなかった。地区等の懇談会では自由な意見交換の場で、本音を聞くことができ、有意義であったが、本当の意味で教育委員会が住民にとって身近なものとなっているかは、保護者や地域住民からの期待に応え切れていないなど、まだ課題はあると思う。	PTAや地域住民と直接対話し信頼関係が構築されてこそ、問題解決への手掛りが得られると考え、委員の積極的な参加を促していきたい。 あげられた多くの課題は、教育委員会、PTA、各地区が連携して取り組む必要があるが、これらは多くの場合、時間がかかってしまうので、早急に一体となった協力体制を作る必要がある。また、出された課題に対して教育委員会で取り組んだ事柄については、目に見える形で回答するように努める必要がある。
総合評価	B	学校PTA連絡協議会役員や地域住民との懇談会において、社会問題となっている児童生徒のスマホやインターネット利用について意見交換がなされた。また、目前の課題ばかりではなく「夢」をテーマにするなど工夫されている。多岐にわたる意見を収集し教育行政に活かすための貴重な機会として、委員の出席に配慮しながら大切にしていきたい。また、役員だけでなく、大多数を占める一般の保護者や地域住民、教職員の参加も含め、さらに工夫が必要である。多くが関心を寄せるテーマを設定した懇談会や意見交換会の随時開催によって、それぞれ課題を教育委員、保護者や地域の方々と共有できるよう努めていきたい。	

(4) 訪問(学校・幼稚園・保育園)

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

<p>【目的】 学校・幼稚園・保育園現場を訪れることにより、現場が抱えている課題を把握し、教職員との懇談を通し、今後の教育行政に反映させる。</p>			
評価項目	評価	評価の主な根拠	課題に対する改善点等
①学校・幼稚園・保育園の教職員と教育行政を担う教育委員とが、真摯に問題を共有できたか	A	学校や園の訪問により、教職員と教育委員会が直接意見交換をし、課題を共有することができた。日頃の保育・教育的指導の状況、特別なケアの必要な生徒への対応等に関する現場の姿勢を理解し、中学校給食や施設面の課題も共有することができたが、更なる本音で話し合う雰囲気醸成が必要である。	各訪問は年1回と少ない状況であるが有意義な機会と捉え、双方が垣根の無い雰囲気作りに努力し、課題の共有に繋げる必要がある。 昨年度の外部評価にあるよう、訪問時のみならず、日頃から情報共有できる連携が必要である。今後、具体的な体制づくりについて検討、協議していく。
②学校・幼稚園・保育園訪問を通して得られた情報やご意見をその後の教育行政に生かすことができたか	A	現場の「生の声」を直接聞くことにより、一段と双方の励みが出、力強い対応ができたと言える。各学校・園の学習指導や生活指導の取り組みを理解し、施設面の改善や職員増員の要望は実現に努めた。特に各校1名ずつ図書室に司書を配置できたことは、子どもの読書活動に貢献できたと考えられるが、予算面での各要望への対応はまだ十分とは言えない。また、中学校給食については現場の意見を直接聞き、その後の議論の参考となった。	今後も出来る限り学校・園の訪問を行い、得られた情報や意見を小1プロブレムや中1ギャップの解消、いじめ・体罰防止等の対策にも繋げていきたい。また、訪問後に具体的に何が出来るのかを話し合う機会があれば良いと考える。

総合評価	A	<p>訪問では、授業や保育参観も実施され、教育委員会からは感想や質問の他、多岐にわたる意見交換がなされ、児童生徒が安全で安心して過ごせる教育環境作りに活かすことができている。現場が抱えている課題を共有し、課題解決を図るための連携がとれたと考える。喫緊な案件についてはタイムリーに対応した。今後も引き続き、課題解決に向けた具体的な対応が必要と考える。ただ、年に1回の訪問だけでは、十分な聞き取りや対応が難しく、日頃からの連携が大切である。</p> <p>それぞれの教育現場での視察と意見交換で多くのことを学んだが、「教える」というテクニックではなく、日々、体を張っての授業に対する切磋琢磨は感謝に値する。教育現場に遠慮はいらないはずで、今後は更に大磯町の人材確保に努力していきたい。様々な課題について、公開できるものは公開し、解決に向けてのプロセスが見えるようにすべきと考える。</p>
------	---	--

(5) 訪問(行事等)

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

【目的】			
学校・幼稚園・保育園行事や教育委員会主催行事への参加をとおして、教職員、園児・児童・生徒及び地域住民と積極的に交流、意見交換することにより、各学校や地域の取り組みについての認識と理解を深める。			
評価項目	評価	評価の主な根拠	課題に対する改善点等
①教育委員が、園児・児童・生徒、保護者、地域住民と有意義な交流、意見交換が持てたか	A	<p>学校・園の体育祭、文化祭など児童・生徒主体の活動や入学式等の式典、行事に参加することにより、普段とは違った子どもたちの様子や教職員の努力の成果をうかがい知る貴重な機会となっている。積極的な参加により、行事の賑やかな雰囲気の中で保護者や地域住民、児童や生徒たちとも交流を深めることができた。</p>	<p>児童生徒、保護者や地域住民と教育委員会がより身近な存在となり、双方の情報発信と収集の機会としていきたい。しかし、日程の都合もあり、本音で話せたかという観点では課題がある。今後共、早めに計画を立て実施していきたい。</p>
②各学校・園や地域の取り組みに関して、認識と理解を深めることができたか	A	<p>各学校や園が各々の教育目標に則って、特色を生かし工夫した行事に取組み、児童生徒の成長を支えていることが理解できる。また、地域の取り組みについても、地域の主体性を基軸とした行事に参加し、様々な発見の機会とし理解を深めた。</p>	<p>学校訪問や地域懇談会と異なるアングルから学校や園や地域と接する機会として、積極的な参加を継続したい。</p>
総合評価	A	<p>学校・園・生涯学習関連の行事は、児童生徒のご家族、地域の幅広い年齢層、様々な立場の住民が参加する様子から、教育は学校と保護者、地域住民など、多くの人々の関わりと連携・協力によって成立していることが理解できる。教育は長いスパンを持って努力を続けていく必要があるが、それを達成出来たときには大輪の花が咲くことは間違いない。また、一度に様々な人との交流ができるため、有意義な機会であるとともに、特に地域の人からは堅苦しくない雰囲気の中で貴重な意見を聞くことができる。</p> <p>今後も訪問を通して情報発信と収集を継続し、保護者や地域住民、お互いに有意義な機会としていくとともに、教育行政に活用していきたい。</p>	

4 学識経験者による評価（外部評価）

【外部評価者】（敬称略、項目ごとの記述記載順：欄中○印）

氏名	所属等	備考
成田 康昭	立教大学社会学部教授	
清田 義弘	元教育委員	

【外部評価の概要】

点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する上記の方々のご意見をお聞きする機会を設け、次の2点について、外部評価をお願いしました。

- ① 内部評価での評価項目や評価そのものが適正・適切であるか(内部評価の妥当性)
- ② 内部評価での評価項目や評価そのものが妥当性に欠ける場合や更によりよい評価活動を目指すための指針(指導・助言)

なお、各項目の記述については、外部評価者ごとに（○印）、順に記載しました。

(1)教育委員会議

内部評価の妥当性について	指導・助言
<p>○教育委員会議が適切に開催、運営され、教育行政の円滑な運営に資する適切な活動が行われていると考えられる。①の教育委員会議の周知、公開は適切に行われており、「A」評価は妥当である。</p> <p>②の意思決定機関としての役割においても、事前の勉強会などにより、緩急のある実質的な審議がなされていると評価できるので、「A」評価は妥当である。③の今日的課題への対応は、いじめ問題に関しても、きわめて活発かつ真摯な対応がなされていることが議事録からうかがえる。また、喫緊の課題である中学校給食の導入も、別途検討会を設けて検討するなど大きな努力がなされており、「A」評価は妥当といえる。</p> <p>④の地域住民にとっての身近さに関して、内部評価が根拠としているように、会議の公開性の確保、PTA 連絡協議会、地域懇談会への参加などの取り組みを行っており、「A」評価は妥当である。</p> <p>⑤の地域住民、学校などとの懇談から得られた課題を議題化できたかに関しては、直接に教育委員会会議の議題としては見えないものの、事務連絡調整会議レベルでは十分に議題となっていることがうかがえ、適切な対応が図られているといえる。その意味で、評価「A」は妥当と考える。要望、課題が多岐にわたることは理解できるが、</p>	<p>○今日の複雑化し、深刻化している社会環境、教育環境の中で、教育委員会の役割は大きくなっている。そこでは、保護者、地域住民、町民との課題の共有が何よりも重要となる。①の改善点に書かれているように、今後とも会議結果の早期公開など、関係者、地域住民との距離を縮めるよう努力していただきたい。また、いくつかの改善は見られるが、いじめ、不登校対策などに関する「見える化」を今後ともさらに、推進していただきたい。</p> <p>③において「幼児虐待防止として様々な講座を開催」となっているが、具体的にどのような講座が持たれたのかについて、定例に行われている「児童虐待相談」やホットライン以外にどのような講座が持たれたのかが見えてこない。議事録（第10回定例会）から、定例町議会への説明内容として、子育て支援総合センターを中心とした取り組みが触れられているが、教育委員会の行っている取り組みとして、分かりやすい提示の仕方とはなっていない。改善の余地がある。</p> <p>大磯町の教育委員会は、地方自治法などが定める「学校その他の教育機関」の管理機能を越え、子育て支援、地域との連携などにわたる広</p>

十分な精査を行い、重要な案件に関しては、予算確保を含め、今後も努力していただきたい。

教育委員会会議は、町民、保護者、地域住民と課題を共有しながら、検討、審議を行っており、全体として実質的な成果を上げていると考えられるので、総合評価「A」は妥当である。

○教育委員会がそれぞれの案件について真摯に協議し、各委員が目的に沿って前向きに取り組んだことに敬意を払いたい。①の教育委員会が法令等に沿った開催がなされたことは「A」として評価できる。②の教育委員会が、適正な意思決定機関になっているかは「十分に協議をし」「方向性を示すなど適切な対応を行なった」とあり、それは会議録からも伺える。「A」は妥当と考える。③の教育行政における今日的な課題に対応しているかは、幼児虐待防止としての様々な講座の開催、いじめ体罰問題への学校関係者との迅速な対応とその後の防止、中学校給食の方向性等「A」は評価できる。④の教育委員会が、地域住民にとって身近なものになっているかは、誰でも傍聴できオープンな会議であること、PTA連絡協議会、地区懇談会等に積極的に参加し、保護者との交流を通じ、地域における教育のあり方に力を注いだ。これにより、教育委員会活動等の情報発信、ニーズや課題の共有に努めるとともに、教育行政へのフィードバックに努めた、とあり「A」は評価できる。

⑤の得られた課題を議題として適切に対応したかについては、各学校・園への訪問やPTA・地域住民との懇談会で提起された要望や課題については、できるだけ会議において議論し対応に努めた、とあり「A」はほぼ妥当と考える。

総合評価については、定例会の会議録を見ても様々な角度から審議し、平成 25 年度の教育委員会基本方針に沿った話し合いがなされていることも散見され「A」は評価してよい。

範な取り組みを行なっているところに、大きな特徴があると思われる。児童虐待が深刻な社会問題として対処が求められているなか、教育委員会が行っている、そうした子育てと教育を総合した取り組みを、見える形で伝えていくことが重要であろう。

○今後も、様々な課題に対して、積極的に速やかに審議し沈着冷静に対応していただきたい。教育委員会がより適正な意思決定機関となるためにも、速やかに情報を共有し、タイムリーに審議解決できるよう事務局と連携を図ってほしい。また、予算確保が必要な課題については、町部局への働きかけ、協力要請も必要であり、ねばり強く当たってほしい。

また、地域への見える化についても、さらなる開かれた教育委員会を目指して努力してほしい。

(2) 事務連絡調整会議

内部評価の妥当性について	指導・助言
<p>○項目①に書かれているように、諸問題だけでなく、子育て新制度、警察との連携制度など新たな検討課題がある中で、事務連絡調整会議の役割は大きくなっていると思われる。成績評価問題などに関する情報収集と共有の不足から、「B」評価とされていると考えられるが、事務局との連絡、連携を強化し、喫緊の課題にあたっていたきたい。そうした課題が残されているという意味で、この評価は妥当である。</p> <p>新制度への理解、給食のような総合的判断を要する検討など、②に挙げられている勉強会等の役割が重くなっている。こうした時間のかかる作業が着実になされている点は評価できるので、「A」は妥当である。</p> <p>事務連絡調整会議の本来の機能であった③に関しては、ほぼ十分な事前の情報収集と準備はできる状況であったと考えられる、したがって、評価「A」は妥当である。</p> <p>総合評価として、円滑な教育委員会会議の運営準備機能は果たしているが、複雑化、多様化する問題に対処するための、フレキシブルな対応策、事前学習が十分でないことから、評価「B」としている。確かに、満足すべき水準には、まだ達していないともいえようが、逆に考えると、ここはゴールという点だけを考えると、際限のない部分でもある。問題の性質にもよるが、「助言」として書かせていただいた例のように、発想を切り替えて、町民や保護者の考えに耳を傾けるといったことも重要であろう。</p> <p>○①については、必要に応じて、適宜、開催され情報の共有化ができたと考えられるが、成績評価や事故被害といった喫緊・重要な案件については、情報収集が十分とは言えず、一部、意見の相違等が生じ課題も残る、としていることから「B」は妥当と考える。</p> <p>②については、資料や情報など事前の対応に十分</p>	<p>○昨今の教育、子育てを巡る課題の状況からいって、事務連絡調整会議の役割はますます大きくなっていると考えられる。それだけに、この部分での情報の公開は重要である。もちろん、それが難しいことは十分理解できる。昨年の外部評価を受けていただいた結果と思われるが、活動報告として挙げられている項目数も格段に多くなり、「活動状況」のところに「項目」だけでなく「内容」も加わったため、事務連絡調整会議の活動の内容が良くわかるようになった。ただ、実際のところ、どのような議論がなされたのか、どのような情報が提供されたのかは、なお、十分とはいえない。</p> <p>プライバシーの保護のためという場合は別としても、問題が複雑かつ両面的な性格を持つために、安易な公開ができないという側面もあると思われる。しかし、そういった性質の問題に関しては、町民とともに考えるという姿勢も大事ではないだろうか。</p> <p>たとえば、PTA や地域との懇談会を一種のパブリック・コメントの場として、積極的に問題提起するというような試みをしてはどうだろうか。その場合、事前に町のホームページ上で開催予告と問題提示を行うなども効果的であろう。</p> <p>○臨時の会は別として、定例会後の学校訪問までの事務連絡調整会議は、時間が限られている。その中で様々な話し合い、打合せをして共通理解を図っていることに敬意を表したい。今後必要なら、大変ではあるが、臨時に会議を開き、教育委員会が深く丁寧に慎重に審議できるよう心がけていただきたい。</p>

<p>な配慮がなされたことに加え、委員からも情報収集を行い、様々な案件について議論することができた。予算・教科書採択・中学校給食・子ども子育て新制度に関わる勉強会では、時間をかけて情報の共有と各課題についての一層の理解を深めることができた、とあり「A」は評価できる。</p> <p>③については、事前の事務連絡調整会議や勉強会では、協議案件や審議案件についての情報提供により、問題点や論点の共有等、概ね理解することができた。常に丁寧な資料として対処、処理が出来ていたといえる、とあり「A」は妥当と考える。</p> <p>総合評価については、今日的課題や複雑化・多様化する喫緊の問題の対応には、情報の精査や不断の検討が求められる。さらに工夫して未解決の課題を残すことなく、フレキシブルな議論の場として事前学習のできる環境作りに努めるとともに、少しでも深く対応策を話し合うことが出来るよう、「参考資料」として関連資料等の充実も必要と考える、とあり「B」は妥当と考える。</p>	
--	--

(3)意見交換会・懇談会

内部評価の妥当性について	指導・助言
<p>○項目①の適当な時期と回数の実施に関しては、PTA 連絡協議会が1回、地区懇談会が3回であったが、これまで PTA 連絡協議会との意見交換会は年に2回開かれており、地区懇談会は、平成 23 年度は8回、平成 22 年度は5回開かれていることから比べると、後退している。学校の事情や各委員のスケジュールが理由としてあげられているが、ここまで減らす積極的な理由は書かれていない。もし位置付けを変えて、回数を以前のように行う必要がないと考えておられるならば、そのように書くべきである。したがって、ここでの評価は努力が必要という意味で「C」とするべきではないだろうか。</p> <p>②の課題が適切に話し合われたかについても、とくに PTA 連絡協議会との懇談会においては、例年のような活発な懇談内容が書かれておらず、いかなる内実があったのかが推し量れない。ま</p>	<p>○PTA や各地域との懇談の意義は異論なく認められるところであるが、残念ながらそれが建て前にとどまってしまう可能性も少なくないと思われる。いかにして、この場を実質的に内容のある意見、議論がなされるものにするかは、難しい課題である。たとえば、PTA 連絡協議会との懇談会は、事実上各学校の PTA 役員が、義務として出席しているというケースもあり得る。そこを、積極的にとらえ返していただき、この貴重な機会を建設的な意見交換の場として設定できるようにお考えいただきたい。</p> <p>平成 25 年度の場合は「町長講話」を中心に据えたようだが、その効果はどうであったのか、検証が必要である。</p> <p>双方向的な意見交換の機会が必要であるし、大磯町の規模であるからこそ成り立つ、実質的具体的な話し合いも可能である。</p>

た、地域フォーラム・懇談会なども、教育委員会としては「地域における教育のありよう」を探るために重視してきたはずであり、回数などが減少する理由が知りたい。そうした意味で、この②の評価も「B」とすべきではないか。

③での懇談会などの意見を教育行政に生かしたかという点では、児童生徒の地域環境の改善に繋がった一方で、予算の問題で実現できない部分もあったとのことだが、懇談の場ではなかなか整理できなくとも、意見・要望を政策に練り上げる努力が望ましい。評価「B」は妥当であろう。

④で書かれているように、一度しか開催されなかった PTA 連絡協議会との懇談会に、教育行政運営に責任のある教育委員の出席はなかった（教育長は出席）。教育委員会が住民にとって身近なものになるという点からは、ほど遠いと思なざるを得ない。したがって、ここでの評価は「C」とすべきではないか。総合評価の「B」に関しては、今後への期待を込めて妥当としたい。

○①については、大磯町立学校 P T A 連絡協議会役員との懇談会に 1 回、小中学校主催の地区懇談会に 3 回出席し、子ども達を取り巻く様々な課題について共有できたが、いずれも 8～9 月の期間に集中していることから、日程的な考慮も必要であり、また会合の機会もまだ少ないと感じる、とあり「B」は妥当と考える。②については、各懇談会では、子ども達の健全育成を図るテーマを設け、活発な意見交換がなされた。保護者からは、子どもの携帯機器・ネット使用の不安や子育ての悩みについて本音が語られ、地域住民からアドバイスがされる等、有意義な話し合いがなされた、とあり「A」は評価できる。

③については、様々な意見交換から、保護者や地域の方々の思いを共有し、児童生徒に対する声かけや見守り等、地域の方々との協働による安全な環境作りに反映できた。しかし、「教育行政にはお金がかかる」との例え通り、要望通り全てがうまく行われているわけではなく、予算の立て方など優先順位

たとえば、教育委員会側から、問題を事前に投げかけておくとか、PTA 連絡協議会側の参加者に各校毎に何らかの問題提起や提言をもって来てもらうなど、話し合いを実質化する方法を考慮すべきであろう。

○地域での会合では、役員の参加は多いが一般の参加がやや少ないように感じている。「子どもネット社会」等子どもの様々な問題については一般の保護者の協力が欠かせない。広報等での周知、回覧での周知を心がけているようだが、工夫して参加を促す方法を考えたい。

今後も、学校・保護者・地域住民の連携を図るべく努力してほしい。

<p>も含めて、十分検討する余地は残されている。また、地区が変わっても似通った問題が毎回出されるということは、十分に生かせていないともいえる、とあり「B」は妥当と考える。</p> <p>④については、今年度の大磯町立学校PTA連絡協議会との懇談会は、教育委員の出席がなく、顔を合わせて話し合う身近なものとならなかった。地区等の懇談会では、自由な意見交換の場で本音を聞くことができ有意義であったが、本当の意味で教育委員会が住民にとって身近なものとなっているかは、まだ課題はあると思う、とあり「B」は妥当であろう。</p> <p>総合評価については、学校PTA連絡協議会役員や地域住民との懇談会において、多岐にわたる意見を収集し教育行政に生かすための貴重な機会として、委員の出席に配慮しながら大切にしていきたい。また、役員だけでなく、大多数を占める一般の保護者や地域住民、教職員の参加も含め、さらに工夫が必要である。多くが関心を寄せるテーマを設定した懇談会や意見交換会の随時開催によって、それぞれの課題を教育委員、保護者や地域の方々に大切に共用出来るよう努めていきたい、とあり「B」は妥当と考える。</p>	
---	--

(4) 訪問(学校・幼稚園・保育園)

内部評価の妥当性について	指導・助言
<p>○国府の生沢分校への訪問が台風のため実施出来なかったほかは、各校・園すべてに対して、教育委員4名と教育長が揃って訪問し、実質的な懇談が行われている。毎年行われているこのようなきめ細かい活動は、大磯町の教育の質を高めるのにきわめて重要な役割を果たしていると思われる。</p> <p>活動の報告からも、①に書かれている課題の共有と理解が十分に行われていることがうかがえるので評価「A」は妥当である。</p> <p>項目②の情報や意見を教育行政に生かすたかに関しては、給食への意見、図書室への司書配置など、実質的な成果が記されており、評価「A」</p>	<p>○すでに、成果を上げている事業であるが、課題としている「本音で話し合う雰囲気」をさらに醸成する仕組みを考えていただきたい。「抱えている問題」と「解決のために考えられること」を同時に議論のテーブルにあげて語り合うなどの、議論の実質化、具体化への工夫がほしい。</p> <p>小1プロブレムや、中1ギャップの解消、いじめ、体罰防止などの今後の課題も示されている。これらを巡って、学校間を跨がる、教員と教育委員による公式、非公式な勉強会、交流がもたれる日が待たれる。</p>

は妥当である。

総合評価においても、明確に方向性が述べられており、教育委員と教員という立場と役割が違う両者の意見がうまく噛み合って成果が上がっていることが確認できる。評価「A」は妥当である。

○学校・園への訪問によって、現場の抱えている課題の把握、教職員との懇談を通して今後の教育行政に反映させることは重要である。

①については、学校や園の訪問により、教職員と教育委員会が直接意見交換をし、課題を共有することができた。日頃の保育・教育的指導の状況、特別なケアが必要な生徒への対応等に関する現場の姿勢を理解し、中学校給食や施設面の課題も共有することができた、とあり「A」は評価したい。

②についても、現場の「生の声」を直接聞くことにより、一段と双方の励みが出、力強い対応が出来たと言える。各学校・園の学習指導や生活指導の取り組みを理解し、施設面の改善や職員増員の要望など実現に努めた。また、中学校給食については現場の意見を直接聞き、その後の議論の参考となった。特に各校1名ずつ図書室に司書を配置できたことは、子どもの読書活動に貢献できたと考える、とあり「A」は妥当と考える。

総合評価も、訪問では、授業や保育参観も実施され、教育委員会からは感想や質問の他、多岐にわたる意見交換がなされ、児童生徒が安全で安心して過ごせる教育環境作りに生かすことができている。現場が抱えている課題を共有し、課題解決を図るための連携がとれたと考える。喫緊な案件についてはタイムリーに対応した、とあり「A」は妥当と考える。

○総合評価の後半に記述がある、年に1回の訪問だけでは、十分な聞き取りや対応が難しく、日頃からの連携が大切である。それぞれの教育現場での視察と意見交換で多くのことを学んだが、「教える」というテクニックだけではなく、日々、体を張っての授業に対する切磋琢磨は感謝に値する。教育現場に遠慮はいらぬはずで、今後は更に大磯町の人材確保に努力していきたい。様々な課題について、公開できるものは公開し、解決に向けてのプロセスが見えるようにすべきと考える、とあり、今後よりよい訪問になるよう期待したい。

また、引き続き、日頃から情報を共有できる連携に向けて、現場の生の声が聞こえるコミュニケーションづくり(自由に言える雰囲気)にご努力いただきたい。

(5) 訪問(行事等)

内部評価の妥当性について	指導・助言
<p>○訪問した行事の一覧からみて、その回数ひとつとっても、大変な事業であると思われるが、こうした行事は、各学校・園が行なっている日頃の教育の特性、児童生徒の個性を知る貴重な機会である。こうした行事への訪問によって、教育委員自身が、その教育の場の、いわば空気感によって、それぞれの学校・園がおかれている状況を理解することは重要であろう。その意味で、「本音で話す」ところに課題があるとしているが、他に懇談の機会が設けられていることからみても、ここでは必ずしも言葉の上での理解に達さなくとも、十分に成果と言えるのではないか。</p> <p>○①の「有意義な交流、意見交換がもてたか」については、「行事に参加することにより、普段とは違った子どもたちの様子や教職員の努力の成果を伺い知る貴重な機会となっている。積極的な参加により、行事の賑やかな雰囲気の中で、保護者や地域住民、児童や生徒たちとも交流を深めることができた。」とあり「A」は妥当と考える。</p> <p>②の「認識と理解を深めることができたか」も「学校訪問や地域懇談会と異なるアングルから、学校や園、地域と接する機会として、積極的な参加を」とあり「A」は評価したい。</p> <p>総合評価も、「学校・園・生涯学習関連の行事は、児童生徒のご家族、地域の幅広い年齢層、様々な立場の住民が参加する様子から、教育は学校と保護者、地域住民など、多くの人々の関わりと連携・協力によって成立していることが理解できる。」「一度に様々な人との交流ができるため、有意義な機会であるとともに、特に地域の人からは堅苦しくない雰囲気の中で貴重な意見を聞くことができる。今後も訪問を通して、情報の発信と収集を継続し、保護者や地域住民、お互いに有意義な機会としていくとともに、教育行政に活用していきたい。」とあり「A」は妥当であろう。</p>	<p>○日程の調整など難しい点もあるが、今後とも、実施していただきたい。</p> <p>○学校・園への訪問とは別に、それぞれの行事や教育委員会主催行事への参加を通して、教職員、園児・児童・生徒及び地域住民と積極的に交流、意見交換することにより、各学校や地域の取り組みについての認識と理解を深めることができる。その意味でも、多くの行事に参加し有意義な活動をされたことに敬意を払いたい。今後も、様々な行事に参加し、気軽な雰囲気の中で情報収集し教育行政に生かしていただきたい。また、各教育委員の見識を高めるためにも、「神奈川県市町村教育委員会連合会総会・意見交換会」や「神奈川県市町村教育委員会連合会研修会」また「関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会総会及び研修会」には是非参加をしてほしい。</p>

Ⅱ 「平成25年度教育委員会基本方針」についての点検・評価

1 義務教育

《基本方針》

学習指導要領における「生きる力」の理念や「大磯町第四次総合計画」の「心豊かな人を育てるまちづくり」の趣旨を踏まえ、確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成、そして、自己の生き方を見つめ、新しい時代を自ら切り拓くことのできる人づくり等、信頼される学校づくりの実現を目指します。

《目標》

1. 各小・中学校では、学習指導要領に則った適切な教育課程を編成し、特色ある学校づくりに努めるとともに、人間として心豊かでたくましい児童・生徒の育成を目指します。
2. 学校、保護者、地域の方々と諸課題を共有しつつ協体制度を築き、これからの時代の要請に見合う大磯町にふさわしい教育活動の展開を図ります。
3. 「教職員としての使命の自覚」「教職員としての力量」を高めるために、教育研究所機能も活用し、研究・研修の機会や場を拡充します。さらに、異校種間連携や他市町との広域的人事交流も推進します。

(1) 重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ①教職員の研究・研修（かながわ学びづくり推進地域研究事業）
- ②ICTの整備・活用（タブレット端末導入等の予算化）
- ③中学校給食の検討（教育委員会検討会）
- ④児童・生徒の体力向上（子どもの体力向上に向けた取組指針）
- ⑤学校施設の整備（大磯小学校体育館耐震改修、国小学校トイレ改修）

(2) 課題別点検評価

達成状況 AA：達成（予定以上） A：達成（予定通り） B：予定より遅れたが達成 C：概ね達成
D：予定の半分程度達成 E：ほとんど進まず F：その他

実施状況	達成状況	成果（○）と課題（□）
<p>① 教職員の研究・研修</p> <p>県教育委員会から「かながわ学びづくり推進地域研究委託事業」の委託を受け、「分かる楽しい授業の創造」を共通テーマとして設定し、2小学校2中学校を研究推進校として取り組んだ。基礎的・基本的な知識及び技能の習得とこれらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育むことを目指して、各学校の研究テーマを生かし</p>	C	<p>○各校で年間を通じて計画的に授業研究や研修会を行う体制が確立し、学校全体として同じ方向性を持って授業づくりを進めていく意識が定着した。</p> <p>○研究会に幼稚園・小学校・中学校の教員が相互参加したことで、情報交換ができ、幼・小・中の連携を深めることにつながった。</p> <p>□それぞれの研究地区や各校の研究成果を</p>

<p>ながら、実践研究や研修を実施した。 各校の授業研究会や地区研修会への相互参加により研究内容の交流を図った。</p>		<p>町全体でいかに共有していくかが課題。</p>
<p>② ICTの整備・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校コンピュータ室に児童・教師用タブレット PC を 44 台、中学校コンピュータ室に生徒用 40 台、教師用 2 台のコンピュータと 10 台のタブレット PC を導入整備するための予算化を行なった。 ・電子黒板等情報機器活用のため、各校の実践事例を持ち寄り、共有化する研修会や、タブレット PC 導入に向けて活用事例を学ぶ研修会を教職員対象に開催した。 ・電子黒板活用時の補助資料作成に有効なプレゼンテーションソフト活用研修会を教職員対象に開催した。 	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○校務用コンピュータ・ネットワークが整備されていることにより、IT 資産の一元的な運用管理と情報教育の推進を図ることができた。 ○電子黒板のみならず、実物投影機、デジタルテレビなど ICT 機器を活用し、児童・生徒の学習への興味・関心・意欲を高め、分かりやすい授業の実践ができるよう工夫した。また、活用事例を共有化することにより、より多くの教員が ICT 機器を活用した授業づくりに積極的に取り組むことができるように努めた。 □ICT 機器の活用が不得意な教職員へは、学年単位での活用推進を促すとともに、使いやすいソフトの導入など、環境を更に整える必要がある。 □タブレット PC の導入に対して一定の目処がついたので、導入後にスムーズに活用できるような研修等を計画する必要がある。
<p>③ 中学校給食の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校給食の導入に係る教育委員会検討会を 7 回に渡り開催し、中学校給食実施校への視察、中学校給食に関するアンケート調査、給食方式別施設整備費の試算・検証、給食方式別の課題等について検討を行なった。 ・検討の結果を、「中学校給食の導入に係る教育委員会検討会意見書」として取りまとめ、教育委員会としての中学校給食の方向性を決定した。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校給食先進地視察を行い、センター方式、デリバリー方式及び自校方式の特徴と課題について比較・検討することが出来た。 ○アンケートを実施し、児童・生徒、その保護者等の意見を広く聴取し、検討材料として、中学校給食ニーズの把握をすることが出来た。 ○7 回に渡る議論により、給食実施における様々な課題を克服し、早期に給食を導入するためには「デリバリー方式」が最も有効な手段であり、現実として可能な方法であると結論付けた。

		<input type="checkbox"/> 教育委員会検討会意見書の内容について、保護者等に十分周知し、学校給食の早期導入に向けて進めていく必要がある。
④ 児童・生徒の体力向上 <ul style="list-style-type: none"> ・「大磯町学校教育における子どもの体力向上に向けた取組指針」策定後の初年度であり、教員に対する方針の周知に努めた。 ・指針に基づき、各学校ではそれぞれ特色ある取組みを進めた。 ・各学校の取組みを、学期ごとに教育委員会事務局で集約し、学校長等の経営者会議や教頭会において共有した。 ・中学校武道指導の講師謝金を予算化し、中学校保健体育科で必修化された武道指導の充実を支援した。 	C	<input type="checkbox"/> 「大磯町学校教育における子どもの体力向上に向けた取組指針」を策定したことにより、児童・生徒の体力向上に向けた取組みを町立学校全体の共通の課題として明確にすることができた。 <input type="checkbox"/> 各学校では、指針を意識した実践に年間を通して取り組むことができた。 <input type="checkbox"/> 児童・生徒の体力向上については、短期的に成果を求めるのではなく、継続的に着実な取組みを進めていく意識が必要である。学校として組織的な取組みを進めるとともに、教育委員会事務局として学校の取組みを支える施策を実施することが求められる。
⑤ 学校施設の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より行っていた大磯小学校体育館耐震改修工事が完了した。 ・国府小学校トイレ等改修工事が完了した。 	A	<input type="checkbox"/> 予定工期の平成 25 年 6 月末で工事が完成した。 <input type="checkbox"/> 予定工期の平成 25 年 10 月末で工事が完成した。 <input type="checkbox"/> 児童に快適な安全環境を提供することができたが、各施設とも老朽化が進んでおり、総合計画に位置付けるなど優先順位をつけ、施設の安全確保が必要である。

(3) 教育委員による評価

① 教職員の研究・研修

<p>評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育は単に知識を教えるだけでなく、知識を活用する力を養い、思考力・判断力・表現力を育て、人として生きる力を習得させる場としたい。これを目指して幼稚園・小中学校の教員が計画的な研究研修を実現している。 ・昨年度に引き続き、幼・小・中および二地区間の交流により、情報交換がなされていることは評価できる。ただ、自校内でのコミュニケーションが足りていない観がある。 ・各校において計画的に授業研究や研修会を行う体制が確立し、学校全体として同じ方向性を持って授業づくりを進めていく意識が定着したことは評価できる。ま
------------	---

	<p>た研究会に幼稚園・小学校・中学校の教員が相互参加したことで、情報交換やそれぞれの連携が深まったことは今後の大きな力になることである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい授業を展開し、宿題を工夫している教員が見受けられる。研修の成果が表れているものと評価する。 <p>・以上のことからA評価が妥当である。</p>
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・県教委の委託事業は2年目となり、2小学校2中学校は真摯な取り組みを行なっている。内容は学校関係のみで共有されており、今後、町全体で共有を図ることにより、学校の取り組みへの理解が期待できる。 ・交流や研究・研修への参加により得られたノウハウを咀嚼し、研修の成果を出すために、各校は職員間の縦横に壁を作らず、お互いに協力、補完し合う体制づくりの構築が大切である。 ・それぞれの研究地区や学校の研究成果を今後は町全体としてどのように共有していくかが課題となろう。 ・県外の意識の高い学校訪問の機会が欲しいと思う。

② ICTの整備・活用

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・校務用コンピュータ・ネットワークが整備されていることにより、IT資産の一元的な運用管理と情報教育の推進を図ることができている。一方、電子黒板のみならず実物投影機、デジタルテレビなどICT機器を活用し、児童・生徒の学習への興味・関心・意欲を高め、わかりやすい授業、活用事例を共有し、積極的な授業展開ができた。 ・ICT機器を利用した教育の不断の推進に向け、小中学校においてタブレットPC等の導入を予算化したこと、ICT機器の整備と並行して活用に向けた研修の充実に努力していることは評価できる。 ・タブレット型PCなど電子機器の導入に向け、職員が使いこなせるよう努力していることから、わかりやすく、楽しく学べる環境が整いつつあることは評価できる。 <p>・以上のことからA評価が妥当である。</p>
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の学習意欲を高めるために、ICT機器の整備とそれを活用する教職員のスキルアップが求められる。また、校務用PCネットワークの一元的運用を図る一方で、情報管理の充実のためにセキュリティー維持と研修の継続が必要である。 ・機器やソフトウェアは年々、進化する。もともと専門知識のない使い手が進化に追いついていくには大変な苦勞があると想像される。研修を行うとともに、学生ボランティアや保護者を活用するなどの工夫も必要である。 ・子どもは柔軟な考えで機器に慣れるのも早いので、自由に扱える機器（iPadやパ

	<p>ソコン) が随所にあればと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I C T機器の活用が不得意な教職員には使いやすいソフトの導入やスムーズに活用できるような研修等を計画する必要がある。不得手な教職員に対してもう一步進んだ対応を望む。
--	---

③ 中学校給食の検討

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の「中学校給食に関する懇話会」の内容を踏まえ、新たにアンケート調査・視察や諸課題の検討を重ね、給食導入の方向性を決定し、町ホームページで公開したことは評価できる。 ・長期、多岐にわたる検討の結果、委員会としての方向性を出すことができた。 ・アンケート調査、給食方式別の課題等の検討を行い、方向性を決定した。 ・中学校給食先進地視察やセンター方式、デリバリー方式及び自校方式の特徴と課題について比較検討することができ、またアンケートを実施し、中学校給食のニーズの把握ができたことは評価できる。 <p>・以上のことからA評価が妥当である。</p>
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・食育を学習の一環とするため、また、弁当を持参するのが困難な生徒のためにも給食は必要である。自校式を諦めたわけではなく、一刻も早く給食を実現して欲しいという多くの期待に応えるべくデリバリー方式を採用することへの理解が浸透していない観がある。今現在、最適とされるデリバリー方式を実施しつつ、自校式を目指す努力を行うことにつき、引き続き周知を図っていく。 ・内容の説明時期や検討会のあり方に工夫が必要と考える。 ・教育委員会検討会意見書の内容を周知するため説明会の開催等、方策の検討が必要である。 ・教育委員会検討会意見書の内容を保護者に十分周知し、学校給食の早期導入に向けて努力を続けていく必要がある。

④ 児童・生徒の体力向上

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・指針に基づく取り組みが行われていることは評価できる。 ・「指針」策定後の初年度に当たり、指針の周知と経営者会議や教頭会でそれぞれの取り組みの共有を図ったこと、又、中学校武道指導について予算の確保を行なっている。 ・「大磯町の体力向上に向けた取組指針」を策定したことにより、児童・生徒の体力向上に向けた取組みを町立学校全体の課題として、また各学校では指針に基づいた計画を実行でき、今後に期待でき、評価できる。 ・体力向上への意識付けをした。 ・県内で大磯町だけがボランティアに依頼していた武道指導の講師謝金を予算化した。
-----	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・武道指導講師による授業の組立てにあたっては、教職員との協議・調整が十分されていたとはいえない。 ・以上のことからB評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・指針を基にした各小中学校の取り組みに対し、教育委員会は取組み状況の把握と指導を行い、支援する必要がある。 ・体育の実技や武道の取り込みだけが、体力向上に役立つわけではない。携帯機器や習い事に多くの時間を費やすことの多い児童・生徒が、学校にいる間だけは、何かしらの運動ができるよう、運動を生活習慣に取り入れる工夫が必要である。 ・講師の活用が十分になされていないことは課題である。 ・年齢やレベルに応じた体力向上の取り組みを各校情報共有していく努力が必要。 ・指針に基づき各学校では、それぞれが具体的な特色ある取り組みを計画していくことが必要になるろう。

⑤ 学校施設の整備

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・大磯小学校体育館は耐震強度不足により改修工事が必要となったが、予定通り工事が完了し、安全な環境が確保された。また、懸案であった小学校トイレ改修は25年度に工事完了となり、快適な環境が回復できた。 ・優先度順に必要な整備に予算を割り当て、実施することができた。 ・大磯小学校体育館耐震改修工事及び国府小学校トイレ等改修工事が共に予定工期までに完成した。 ・以上のことからA評価は妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒にとって安心安全な環境を提供することは教育委員会の責務であり、学校施設の整備を計画的に進める必要がある。 ・子どもの命を守るため、老朽化や耐震化につき、優先的に対応してきているが、知恵を絞り、工夫することでバリアフリーに関わる予算を捻出すべく努力する。 ・各施設とも老朽化が進んでおり、今後は優先順位をつけ、総合計画に位置づけるなど児童に快適な環境や安全確保が早急に必要となってくるだろう。 ・後手々に回らないように常に念頭においておく必要がある。

2 子育て支援

《子育て支援の基本方針》

「安心して子どもを産み、育てられる子育て環境づくりの促進」、「家庭、地域、行政が連携し子どもを育てていく体制づくりの促進」、「多様な保育サービスなど子育て支援機能の充実」を基本方針とし、子ども達一人ひとりにはもとより、その保護者に対する子育て支援の充実を目指します。

《目標》

1. 幼稚園では、幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ、保護者や地域の方々との協力体制を築く中で、心豊かでたくましい園児の育成を目指します。
2. 保育園では、保育所保育指針の趣旨を踏まえ、子どもの年齢と成長に合わせた心豊かな子どもの育成を目指すとともに、適切な保育の実施を行います。
3. 幼稚園と保育園の交流を深め、就学前幼児の育成を見据えた中で、幼保連携を推進します。
4. 子育て支援サービスの充実を図り、身近な場所で子育て支援を受けられる「まち」を目指します。また、家庭や地域の教育力を高め、子どもたちがいきいきと成長できる「まち」を目指します。
5. 保育園における待機児童の解消に向けた取組みを推進します。
6. 平成 27 年度の子ども・子育て支援法の本格施行を踏まえ、大磯町子ども・子育て支援事業計画策定の準備等を行います。

(1) 重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ①子育て支援サービスの充実
- ②放課後児童健全育成事業の充実
- ③幼稚園施設開放
- ④保育園待機児童対策
- ⑤大磯町子ども・子育て支援事業計画策定の準備

(2) 課題別点検評価

達成状況 AA：達成（予定以上） A：達成（予定通り） B：予定より遅れたが達成 C：概ね達成
D：予定の半分程度達成 E：ほとんど進まず F：その他

実施状況	達成状況	成果（○）と課題（□）
① 子育て支援サービスの充実 ・子育て支援総合センターでは、子どもの健やかな成長を促し、良好な親子関係を築くための育児力の向上を目指して、母親講座や世代交流会等を開催した。また、新たに東海大学との連携により、子育て講座を開催した。 ・官民協働事業により作成したパンフレットや子育てガイドブック（改訂版）により、事業内容等の周知を図	A	○母親講座（茶道教室、フラワーアレンジメント、利き脳お片づけ）・・・20回（15回） 子育て講座（ベビーマッサージ、リトミック、そだれん、健康に関する講座）・・・30回（20回） 世代交流会・・・3回（2回） ママと一緒にのおはなしタイム・・・23回（18回）

<p>った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「つどいの広場」では、常に身体計測ができるようにベビースケール等を用意したり、町保健師との協力により育児相談も開始し、子育て相談の環境整備により一層努めた。また、お誕生会や親子製作を行ったり、大型の布製積木や屋外遊具（ぞうさんのすべり台）を新設したりして、親子で楽しく過ごせる保育環境の充実を図った。 ・東部地区の「つどいの広場」については、生涯学習館に加え高麗区民会館や東町福祉館においても開催し、拡充を図った（週3日程度開催）。 ・大磯チャレンジフェスタでは、初めて「出張版つどいの広場」を開設した。 ・ファミリー・サポート・センター事業として、新たに「知っていますか？ファミリー・サポート・センター」を開催するなど、周知に努め、地域の相互援助による子育てをサポートする活動を実施した。 ・子育て支援総合センターが窓口となり療育相談を行い、必要に応じて関係機関との連携に努めた。療育相談体制を構築するために、子ども発達支援会議設置に向けて準備会議を開催し、関係機関との意見調整を図った。 ・海の子山の子教室（療育経過観察グループ）を開催し、特別な配慮が必要な子どもとその保護者の支援を行った。 		<ul style="list-style-type: none"> ○子育て支援総合センター（ ）は前年度 来館者・・・12,698名（9,930名） 相談件数・・・803件（588件） 東部地区つどいの広場 利用者数・・・2,204名（390名） 相談件数・・・131件（実施無） ファミリー・サポート・センター 依頼会員・・・82名（58名） 援助会員・・・19名（14名） 利用件数・・・173件（184件） ○療育相談件数・・・56件（30件） 海の子山の子教室 参加児童数・・・13名（10名） 延参加児童数・・・241名（239名） □特別な配慮が必要な子どもや育児支援が必要な保護者への対応に努めるため、関係機関との連携が必要である。また、支援体制の強化を図るため、専門職の配置も必要である。
<p>② 放課後児童健全育成事業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学童保育については、大磯地区は社会福祉協議会に、国府地区は国府学童保育会に運営を委託することにより、保護者が就労等により昼間家庭にいない児童を対象に、指導員を配置し、適切な遊び場や生活の場を提供し、児童の健全な育成を図った。 ・放課後子ども教室については、ボランティアの協力により、放課後の子ども達の安全な居場所づくりに努めた。また、神奈川大学やスポーツ団体と協力し、夏季休業を利用した「夏休み放課後子ども教室」として、イベント等を開催した。 	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○社会福祉協議会と国府学童保育会に運営を委託しているが、適宜話し合いの場をもち、円滑な運営に努めている。 <ul style="list-style-type: none"> ・大磯学童保育所入所数 95人 ・国府学童保育所入所数 59人 ○神奈川大学やスポーツ団体の協力による科学実験教室やスポーツ教室など、試験的に「夏休み放課後子ども教室」を開催した。（両小学校3回ずつと、国府小で合同1回） <ul style="list-style-type: none"> ・大磯小年間開催数31回、参加者2,004人 ・国府小年間開催数29回、参加者2,432人 □国府学童保育所の法人委託を検討。

		<input type="checkbox"/> 放課後子ども教室の拡充（週1⇒週2へ） <input type="checkbox"/> 学童保育と放課後子ども教室の連携
③ 幼稚園施設開放 ・幼児の安全な遊び場確保のために、幼稚園施設開放の利用に関する規程を定め、施設開放の周知を図った。	A	<input type="checkbox"/> 夏季休業の開始に合わせて、幼児の「遊び場開放」として園庭を開放するために、周知を行った（各園の保護者へ説明及びチラシの配布、看板の設置、広報への掲載）。 <input type="checkbox"/> 継続した周知の実施（町立幼稚園以外も検討）。
④ 保育園待機児童対策 ・保育園の待機児童対策として、民間保育所サンキッズ大磯の増改築等に伴う定員増により、待機児童の解消を図った。	A	<input type="checkbox"/> 平成26年1月中旬に県の現地確認検査受検後、新園舎において保育を開始した。 <input type="checkbox"/> 平成26年4月から変更後の定員（90人⇒120人）により事業を開始。 <input type="checkbox"/> 待機児童の解消に向けた新たな取組み。
⑤ 大磯町子ども・子育て支援事業計画策定の準備 ・大磯町子ども・子育て会議を設置し、町の子育て支援の現状や、計画策定内容について審議した。 ・（仮称）大磯町子ども・子育て支援事業計画」の策定に向けたニーズ調査を実施した。	A	<input type="checkbox"/> 学識経験者や保護者の代表、教育・保育関係者から構成する「大磯町子ども・子育て会議」を3回開催し、計画策定作業を進めた。 <input type="checkbox"/> ニーズ調査（未就学児対象） ・平成25年11月実施 ・発送数1,544件、回収数940件、回収率60.9% <input type="checkbox"/> ニーズ調査（小学生対象） ・平成26年1月実施 ・発送数829件、回収数646件、回収率77.9% <input type="checkbox"/> 新制度の周知（広報への連載、保護者への説明を検討）

(3)教育委員による評価

①子育て支援サービスの充実

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援総合センターを拠点として実施されている支援サービスが、東部地区においても実施され、全体として開催回数や利用者数が増加したことは、住民のニーズ把握とサービスの周知に心掛けた結果と考える。 ・さまざまな形で子育て支援活動を実践してきた。また、支援制度の周知にも努力してきたことは評価できる。 ・子育て支援総合センターでは、母親講座や世代交流会等を開催し、良好な親子関係を築くための育児力の向上を目指した。また、新たに東海大学との連携により、子育て講座を開催でき、多くの参加者を得た。
-----	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの支援サービスを提供し、利用者も増えている。 ・以上のことからA評価は妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ファミリーサポートセンター事業では援助会員の不足が続いており、事業の周知や増加への方策を詰める必要がある。 ・様々な相談内容に応じて適切な支援ができるよう、関係機関との連携体制の維持と充実が必要である。 ・主催者側の自己満足になっていないか、漏らしている需要はないか、度々、振り返ってみる必要がある。 ・特別な配慮が必要な子どもや育児支援が必要な保護者への対応は当然であり、支援体制の強化を図るため専門職の配置や関係機関との連携も必要になってくる。

②放課後児童健全育成事業の充実

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の安全に配慮した運営ができています。また、イベントを開催するなどの工夫も見られる。 ・学童保育は児童を安心して預けられる場として、多くの保護者から信頼されている。委託運営により適切な環境の維持に努めていることは評価できる。 ・夏休み放課後子ども教室の開催数、参加者も多く活用されている。 ・学童保育については、大磯地区は社会福祉協議会に、国府地区は国府学童保育会に運営を委託しているが、適宜、話し合いの場を持ち、円滑な運営に努めており、また団体の協力を得て、各種イベントを開催し成果を挙げていることは素晴らしいことである。 ・以上のことからB評価が妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・国府学童保育の民間委託は、児童を預ける保護者の負担を軽減するために必須である。また、学童保育と放課後子ども教室の連携により、効率的で有効な預かりシステムが構築できないか検討する。 ・就労を希望する保護者の増加に伴い、放課後児童健全育成事業の拡充が求められる。開催数の増加のみならず、指導員の配置や他団体等との連携の維持により質の向上に努め、児童にとって安心な環境作りが必要である。 ・保護者が安心して働けるよう、ニーズにあった国府学童保育所となることを望む。 ・今後の課題として、三点上げてみる。一つは国府学童保育所の運営方法の検討、二つ目は放課後の子ども教育の拡充、三つ目は学童保育と放課後の子ども教室の連携などに力点を絞る必要があろう。

③幼稚園施設開放

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の安全な遊び場確保のために、幼稚園施設開設の説明やチラシの配付、看板の設置などの周知を行なった。 ・幼児の安全な遊び場として日常通園している園庭を開放したことは評価できる。
-----	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・規定を設け、周知を図り、開放に向け、必要な対応が取れた。 ・地域住民の希望に添うものと思われ、実現している。 ・以上のことからA評価は妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・利用の周知が幼稚園関係者に限られていることから、地域の幼児も安心して遊べる場所として、園児以外も利用できるよう周知方法を検討したい。 ・引き続き、周知を徹底するほか、他の教育施設の有効活用について検討する。 ・今後は更に周知の徹底を図っていくことが必要であろう。

④保育園待機児童対策

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・民間保育所整備費の助成により保育定員の拡充が成され、待機児童を減らすことは概ねできたが、解消には至らなかった。 ・民間の保育所ではあるが、タイアップして定員増に向けた取り組みができた。 ・サンキッズ大磯の増改築により、受け入れ児童数の増加に貢献できた。 ・保育園の待機児童対策として民間保育所サンキッズ大磯の増築等に伴う定員増により、待機児童の解消を図ることができ、事業の展開ができた。 ・以上のことからA評価は妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度の子ども子育て支援新制度の施行を踏まえ、大磯町の待機児童の現状把握と将来の見通しを考慮し、待機児童ゼロを目指した新たな取り組みが求められる。 ・今後、保育が必要な児童は増加すると予測されている。幼保の協同など、新たな取り組みを検討する。

⑤大磯町子ども・子育て支援事業計画策定の準備

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ調査の結果、詳細なデータを収集できた。また、新制度をふまえた予測調査も実施した。 ・子ども子育て支援新制度が平成 27 年度からスタートすることを踏まえ、大磯町として幼児期教育の質と量の向上、支援の充実を図るために、策定作業を計画的に進めている。 ・学識経験者や保護者の代表、教育・保育関係者から構成する「大磯町子ども・子育て会議」を開催し、計画策定作業を進めており、一方ではニーズの調査にもあたり、新制度への周知を図ってきた。 ・ニーズ調査の回収率の高さは、期待の表れと思われる。 ・以上のことからA評価は妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ調査の結果を基に町の子ども子育て支援事業の展開を図ると共に、特に制度の対象となる町民への周知が必要である。 ・膨大な量の調査に協力してくれた子育て世代の期待に応えなければならない。国が定める新制度に従いつつ、独自の工夫と発想も取り入れ、子育てしやすい街づ

	<p>くりに努力する。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 今後は新制度の内容を広報への連載、保護者への説明等周知の徹底を図る努力をすべきである。・ 調査に寄せられた要望等に対し、しっかりとした対応をとることを望む。
--	---

3 生涯学習

《生涯学習の基本方針》

「生涯学習推進計画」のもと、町民一人ひとりが生涯にわたって、いつでも、どこでも、自由に学習機会を選択し、ともに学ぶことができ、また、町民が主体となった地域に根ざした文化・芸術活動が行われる環境整備を行い、成熟した生涯学習環境社会の実現を目指します。

《目標》

1. いつでも、どこでも、誰でも学ぶことができ、学びを通して、自らを高め、更に学びを地域に活かすことができる生涯学習のまちづくりを進めます。
2. とともに学びあうことで、コミュニティが充実し、人と人とのつながりが強くなる生涯学習のまちづくりを目指します。
3. 町民の財産である文化財を収集・保存し、文化芸術活動への支援や町民の活動を推進することで、町民が郷土の素晴らしさを再認識できる生涯学習のまちづくりを進めます。

(1) 重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ① 「大磯町生涯学習推進計画」の進行・管理
- ② 生涯学習館の環境整備
- ③ 人権啓発活動の推進
- ④ 60回記念おおいそ文化祭の開催
- ⑤ 文化財・埋蔵文化財の資料収集・保護・活用
- ⑥ 対象年代ごとに特色ある学習機会の提供

(2) 課題別点検評価

達成状況 AA：達成（予定以上） A：達成（予定通り） B：予定より遅れたが達成 C：概ね達成
D：予定の半分程度達成 E：ほとんど進まず F：その他

実施状況	達成状況	成果（○）と課題（□）
① 「大磯町生涯学習推進計画」の進行・管理 ・生涯学習に関する事業進行管理表に基づき、事業進行状況調査を行なった。 ・生涯学習推進会議を1回開催した。	B	○各事業進行状況調査の結果、実施評価 A は 148 事業中 58 事業だった。 □実施評価 B と C について、担当各課と調整を行い、評価向上に努める必要がある。
② 生涯学習館の環境整備 ・生涯学習館の使用人数は増加しており（22,674人(前年度比532人増)）、特に2階集会室が多く、稼働率は高い。(97.9%) ・生涯学習館の耐震補強・改修工事の設計委託を実施した。	B	○各修繕により安心・安全な施設環境整備を行なった。 □使用者が増加しているため、工事実施に当たっては、使用に関しての不便をできるだけ軽減するための工事監理が必要である。

<ul style="list-style-type: none"> ・2階集会室のエアコン修繕を実施した。 		
<p>③ 人権啓発活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「このアザは、ぼくの大事な宝物」をテーマに人権教育講演会を開催した。(H25. 11. 12) ・入庁3年目～6年目の職員(任期付含)を対象に人権研修会を実施した(H26. 12. 12, 12. 18) ・人権教育啓発のため、緊急呼子笛の配布を行なった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○人権教育講演会では、受講者からも楽しい語り口で親しみやすく、素晴らしい話だったという声が多くあった。 □人権教育講演会の開催日時について、より多くの方が参加できるように日程調整をする必要がある。
<p>④ 60回記念おおいそ文化祭の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会形式で、主体的な参画を目指して会議を重ね、おおいそ文化祭を開催した。(H25. 10. 19(土)～11. 5(日)) ・60回記念として、記念講演会・パネルディスカッション、展示団体による作品説明や体験教室を実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○会場や予算が限られるなか、開催60回を記念する催しに参加団体が様々な企画を考え、来場者に楽しんでいただいた。 □定着してきた運営委員会形式での開催について、準備や会場の確保、参加団体を増やすための働きかけなど、継続的な支援が必要である。
<p>⑤ 文化財・埋蔵文化財の資料収集・保護・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財の調査については、特に窓口照会の数が544件と増加傾向にある。 ・文化財資料等の保存・活用を図るため、蓄積された埋蔵文化財出土資料の整理と保存処理を行なった。 ・県及び町指定文化財の保全のため、現状変更を5箇所行なった。 ・大磯町文化財調査報告書第49集として『大磯宿小島本陣資料目録』を刊行した。 ・町内の史跡・名勝天然記念物の文化財について、定期巡回観察を9回実施した。 ・消防本部・消防署・消防団・警察署と連携して、地福寺において文化財消防訓練を実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○埋蔵文化財の窓口照会の数が増加傾向にあるため、照会申請者に対し、埋蔵文化財の調査がスムーズに行われるように、資料提出の協力をお願いした。 ○大磯町文化財調査報告書を刊行し、文化財調査結果についての周知を図った。 □天然記念物、有形・無形文化財等に対する助成のあり方については、関係団体と調整を行い、継続的に検討していく必要がある。 □埋蔵文化財に関して、専門的知識が必要な試掘調査や立会い調査等が増えているため、効率的な対応を検討する必要がある。
<p>⑥ 対象年代ごとに特色ある学習機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当社会教育指導員を中心に、各種講座を企画・実施した。 ・講座終了時にアンケート調査を行い、企画内容に対する検証と受講しやすい日程等の把握に努めた。 ・生涯学習にふさわしい青少年・子育て世代・高齢者等各年代を対象に、時事問題や受講者の興味に対応した講座を企画し実施した。 ・人材登録制度を利活用し、新しい人材の発掘に努めるとともに、新規分野の講座を開催した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○各講座とも内容・会場に応じた募集定員に近い受講者の参加があった。(36回 541人) □受講後アンケートを分析し、多様化する町民のニーズを把握し、的確に応えていく必要がある。

(3)教育委員による評価

①「大磯町生涯学習推進計画」の進行・管理

評 価	<ul style="list-style-type: none">・計画の進行状況を調査し管理運営の調整を実施しているが、6割の事業で「達成」予定が遅れている。・事業を見直すことで、今後の運営管理について再検討した。・生涯学習に関する事業進行管理表に基づき、各事業進行状況調査の結果、実施評価Aが148事業中58事業であった。・事業進行管理表による評価を全ての事業を対象に行なっている。・以上のことからB評価は妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none">・今回の事業進行状況調査の結果を真摯に捉え、町の総合計画と連携を図りつつ生涯学習計画を推進する必要がある。・評価の高かった事業を維持継続させるとともに、新たな需要を見出す検討も必要である。・実施評価Bとしたことについて担当各課に調整を行い、一層の評価向上に努める必要があろう。・148もある事業の把握を報告だけに頼らず、職員自ら確認すべきと考える。評価向上につながる可能性があると思われる。

② 生涯学習館の環境整備

評 価	<ul style="list-style-type: none">・生涯学習館の使用人数は増加傾向にあり、稼働率も高くなってきている。施設の修繕もできた。・生涯学習館は町の生涯学習の拠点の一つとして利用者も多く、以前から快適な環境整備が求められる中、改修工事に着手したことは評価できる。・稼働率の高さは評価できる。・改修工事により、環境整備を行なった。・以上のことからB評価は妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none">・修繕に関する工事实施にあたっては、使用に関する不便をできるだけ軽減する必要が今後は求められるだろう。・町の社会教育施設の一つとして使用者が安全安心に利用できるよう、計画的な整備を図る必要がある。・使用者の不便のない修正工事を望む。・更なる利用増加につなげたい。

③ 人権啓発活動の推進

<p>評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人権啓発活動では講演会を企画したり、職員の研修会を実施し、また緊急呼子笛の配付を行なった。 ・人権教育講演会は障害を抱える方達への偏見をなくすことをテーマに講師が選定され、多くの聴衆を集めることができた。その後、小学校の講演へ繋がる等、啓発活動を展開するきっかけとなった。 ・継続的な啓発活動を推進している。また、実施した講演会は好評であった。 ・人権教育講演会受講者の満足のいく結果となっている。 ・以上のことからA評価は妥当である。
<p>改善事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・早い時期から人権を守ることの大切さを心にとめられるよう、子どもにもわかりやすい人権啓発を実施する。 ・人権を守る啓発活動は、幅広い年代を対象に継続して実施することが望ましい。特に講演会等、町民が自由に参加できる企画はその広報に努める必要がある。 ・講演会の企画ではより多くの方々が参加できるよう日程を調整する必要がある。 ・身近に考えて取り組める人権教育を望む。

④ 60回記念おおいそ文化祭の開催

<p>評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全町民の参加型となっている文化祭で、体験教室などの実施も試みた。 ・会場や予算の課題がある中、60回記念として特色ある事業を展開している。 ・運営委員会を主体として参加団体の自主的な取り組みを尊重し、文化祭を運営できたことは評価できる。 ・記念行事は、おおいそ文化祭の周知に役立った。また、参加者主導のイベントを開催することにより、文化祭への参加意識も高まった。 ・運営委員会形式で開催 60回記念の催した会場や予算が限られる中、参加団体が様々な企画を考え来場者に楽しんでいただいた。 ・以上のことからB評価は妥当である。
<p>改善事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会形式で文化祭を開催することで、町と町民の協働意識の醸成を深めながら、参加団体の増加を目標に芸術・文化活動の活性化への支援を更に図りたい。 ・会場確保や新規参入者の確保など、文化祭の維持継続に努める。 ・運営委員会形式での開催は、準備や会場の確保や参加団体を増やすための働きかけなど継続的な支援体制が必要になるだろう。

⑤ 文化財・埋蔵文化財の資料収集・保護・活用

<p>評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財の調査のほか、現存する文化財の保管につき、適切な対応を行ってきた。 ・町の財産である文化財について、保存処理や巡回観察を実施する一方で報告書を刊行するなど保護・活用の手立てを講じていること、また、窓口照会業務が増加する中、紹介申請者に協力を求める等、改善に工夫していることは評価できる。 ・埋蔵文化財の窓口照会が増加傾向にあるため、埋蔵文化財の調査がスムーズに行われるように照会申請者に対し、資料評価提出の協力を、また大磯町文化財調査報告書を刊行した。 ・埋蔵文化財の調査がスムーズにいくよう資料提出の協力を願い出るのは素早い対応のために不可欠である。 <p>・以上のことからB評価は妥当である。</p>
<p>改善事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・助成のあり方や埋蔵文化財の調査立会は課題が継続されており、予算面や人的配置等、工夫改善が必要である。 ・埋蔵文化財は、専門家に協力を仰ぐなど、効率的に調査する必要がある。 ・埋蔵文化財は専門的な知識が必要な試掘調査や立会い調査等が増えているため、効率的な対応を検討する時期に来ているといえる。 ・専門知識の必要な事柄が多くありそうで、効率的かつ慎重に進めてもらいたい。

⑥ 対象年代ごとに特色ある学習機会の提供

<p>評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対象年代ごとに講座を実施し、アンケート調査で講座の検証やニーズの把握に努力し、今後の活動に繋げようとする姿勢は評価できる。 ・人材登録制度を利用し、新しい人材が確保できたことは、新規分野の講座の開催につながった。 ・幅広い年代のニーズに応えようとする姿勢は評価できる。 ・各種講座を企画・実施する中で、募集定員に近い受講者の参加があり、多様化する町民のニーズに応えられるようアンケート調査を分析し、的確に応えて行くことが大切になってくる。 <p>・以上のことからA評価は妥当である。</p>
<p>改善事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人材登録制度の周知に努め、町民ニーズに応えた魅力ある講座の企画と実施が望まれる。 ・各種講座に協力していただける人材は、まだまだ潜在している。今後とも新たな人材の確保に努め、多岐にわたる学習の機会を提供する。 ・多様化する町民のニーズに的確に応えていくことが大切である。

4 図書館

《図書館の基本方針》

幼児からお年寄りまであらゆる世代が豊かな心を養えるよう、興味や関心を満たす機会を提供する場とし、町民の学習活動の拠点となる「町民の書齋としての図書館」を目指して、図書利用サービスの向上を推進するとともに、生涯学習の充実に向けた支援に努めます。

《目標》

1. 多様化する町民ニーズに応える、豊かな心を養う「読書」が活用され、一層親しみを持って自主的な読書活動を行うことができるよう読書環境の整備に努めます。
2. 子どもたちが進んで読書活動を行うことができるよう学校図書館との連携を図り、「学びの場」として図書館が活用されるよう目指します。
3. 情報発信拠点としての図書館施設が老朽化しており、安心・安全に施設を利用できるよう施設整備を推進します。

(1) 重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ①資料の整備・収集と提供の充実
- ②子ども読書活動の推進
- ③図書館施設の計画的な整備

(2) 課題別点検評価

達成状況 AA：達成（予定以上） A：達成（予定通り） B：予定より遅れたが達成 C：概ね達成
D：予定の半分程度達成 E：ほとんど進まず F：その他

実施状況	達成状況	成果（○）と課題（□）
① 資料の整備・収集と提供の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・毎週 1 回選定委員会会議を開催して、「週刊新刊全点案内」を中心に図書の選定を行なった。 ・ホームページの新着図書案内や館内の新着図書コーナーで新しく受入した図書の周知を行い、提供した。 ・一般書、児童書の月毎のテーマ別図書展示を行い、読書普及に努めた。 ・新鮮でかつ適切な資料管理を図るため、資料の入替えおよび除籍を行なった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○町民のニーズや資料の利用状況、社会動向を把握し、各分野の資料を収集して、蔵書整備に努め、4,504 冊の図書を購入した。 ○25,492 件の予約・リクエストを受付、15,001 件は所蔵図書、837 件は購入図書、1,721 件は県内の図書館からの借用図書、1,091 件は所蔵視聴覚資料（CD）を提供した。 ○4,204 冊の図書を除籍し、図書館まつりの古本市に出品するなど、図書のリサイクルを行なった。
② 子ども読書活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・おはなしボランティア養成講座として、「5 分間で語れるおはなし入門講座」を開催した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○おはなしボランティア養成講座を開催して、24 人の受講があり、図書館・幼稚園・

<ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタートをはじめとして、3歳までのおはなし会、おはなしと紙芝居、幼稚園・保育園図書館見学、小学校4年生の学級招待など子どもたちの発達段階に応じた行事を実施した。 ・図書館が推薦する図書のスタンプラリーを年間を通じて実施した。 		<p>保育園や小学校等で活動するボランティアの人材の育成に努めた。</p> <p>○子どもたちの発達段階に応じた行事の実施により、読書習慣や図書館利用のきっかけづくりを推進し、児童書の貸出点数は49,343点あった。</p> <p>○1,134冊の推薦図書のスタンプラリーに134人の参加があった。</p>
<p>③ 図書館施設の計画的な整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した空調設備の改修を平成25・26年度の2ヵ年間で行う改修工事の設計を委託した。 ・平成25年度分（I期）の空調設備改修工事として、エアハンドリングユニット（大型空調和機）1台の交換とチラーユニット（熱源機）3台の撤去と1台の設置を実施した。 	A	<p>○施設を休館しないで、利用者への影響を最小限にして、改修工事が実施できた。</p> <p>○利用者に快適な読書環境を提供するための施設整備を推進できた。</p> <p>□築30年を経過して施設・設備が老朽化しているため、施設・設備の必要な改修・更新を計画的に実施していく必要がある。</p>

(3) 教育委員による評価

① 資料の整備・収集と提供の充実

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・町民ニーズの利用状況を分析し、資料の整備と収集に努力している。 ・図書資料や読書活動への関心が高まるよう、情報発信を行っている。 ・ニーズを反映した資料収集に努めたことは評価できる。また、新しい資料の導入とともに蔵書を除籍することは大切である。さらに展示を工夫し、利用者の興味関心をひくことは活性化につながってくる。 ・町民のニーズや資料の利用状況、社会動向を把握し、各分野の資料を収集して蔵書の整備に努めたり、町民のリクエストにも十分応えられた。 ・周知に努め、予約リクエストに答えている。難しい除籍と購入がほぼ同数（冊）。 ・以上のことからA評価は妥当である。
改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・町民のニーズに答えて、蔵書の充実を図る一方で、ホームページや町広報誌を利用して図書館情報を発信し、町の生涯学習の拠点の役割を果たしてほしい。 ・新聞や週刊誌のような逐次刊行物を各種揃えることも大切だが、図書館本来の目的であるレファレンスもおろそかにできない。高額な参考資料も随時、取り入れていきたい。

②子ども読書活動の推進

<p>評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おはなしボランティアのようなボランティアの力を借り、子どもの読書活動を促進していることは評価できる。特に家庭で読書しない子どもたちを図書館に呼び込む工夫は大切である。 ・おはなしボランティア養成講座を開催し、一定の受講者があり、図書館、幼稚園、保育園や小学校等で活動するボランティア人材の育成に努めた。また子どもたちの発達に応じた行事の実施により児童所の貸出点数が大幅に増えた。 ・子どもたちの読書習慣や図書館利用のきっかけ作りに努めている。 ・子ども達の健全な育ちの一助となる読書活動について、発達段階に応じた行事を実施し、多くの書籍が子ども達に貸し出されていること、又、「おはなしボランティア」養成により、子どもの読書活動のきっかけ作りに努めている。 <p>・以上のことからA評価は妥当である。</p>
<p>改善事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの読書に関心があり、読み聞かせが得意な町民は少なくない。引き続き、ボランティアによる協力を仰ぎたい。また、学校図書との連携も大切である。各校に司書が配置され、パソコンも導入された。図書館と学校図書とが協同で子どもたちに読書を促す工夫と活動ができるインフラが整ったことから、今後が期待される。 ・学校図書館と連携をとり、幼児から中学生までのそれぞれの発達段階に応じた読書活動の案内役として、活動の展開を継続してほしい。

③図書館施設の計画的な整備

<p>評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の空調設備の改修に伴い、休館なしを前提に利用者への影響を最小限に実施できたことは、大きな成果であった。 ・利用者に快適な読書スペースを提供し、安全に改修工事を実施している。 ・利用者に快適な環境を提供し、蔵書を良好な状態で維持するための整備が実施できた。 <p>・以上のことからA評価は妥当である。</p>
<p>改善事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が進む図書館施設の整備は、利用者の安全を確保しながら計画的に改修更新を実施する必要がある。 ・老朽化への対応は、設備を新設することだけではない。リフォームによる工夫も検討すべきである。 ・築30年を経過した施設設備であるので、より一層のスピードで改修、更新計画を進めるべきである。 ・大磯と国府の施設に差がある。

5 郷土資料館

《郷土資料館の基本方針》

館のテーマである「湘南の丘陵と海」に基づき、資料の調査収集、整理保管、研究活用を進めるとともに、利用者や地域住民と一体となった活動を目指します。

《目標》

博物館サービスを向上させ、利用者にとって魅力があり、利用しやすい施設運営を目指します。

(1) 重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ① 収蔵資料の整備・活用
- ② 展示・教育普及活動の充実
- ③ 収蔵庫の整備と施設の計画的な改修

(2) 課題別点検評価

達成状況 AA: 達成 (予定以上) A: 達成 (予定通り) B: 予定より遅れたが達成 C: 概ね達成
D: 予定の半分程度達成 E: ほとんど進まず F: その他

実施状況	達成状況	成果 (○) と課題 (□)
① 収蔵資料の整備・活用 ・昨年度に引き続き、自然史資料及び図書のデータベースの整備を行い、合計で 2,349 件のデータをパソコンに入力し、データ整備を行なった。 ・収蔵資料をより良い状態で保存・活用するために燻蒸を行なった。	A	○自然史資料及び平成 25 年度受入刊行物 2,349 件について、PC 検索が可能となった。 ○燻蒸の実施により、資料の保存状態の向上が期待できた。
② 展示・教育普及活動の充実 ・年間で 7 回の企画展を開催した。 (①ミニ企画展「新収蔵資料展」、②企画展「大磯町の多彩な貝の世界」、③東日本大震災復興支援事業「ミネルヴァのふくろうと明日の日本」作品展、④秋季企画展「一村寺領 高麗寺村」、⑤湘南軽便鉄道 1 世紀記念事業・写真パネル展示会「軽便鉄道と東海道メモリアル」、⑥新春企画展・横溝コレクション「馬! うま! 午!」、⑦春季企画展「きらびやかな雛人形の世界」) ・継続的に実施してきたワークショップを引き続き実施した。 (大磯自然観察会、古文書裏打ちクラブ、古文書解読クラブ、海の森クラブ、石仏クラブ)	A	○例年よりも多くの企画展を開催したことで、入館者数が前年度比 15% 増となった。 ○限られた状況の中で、最大限の活動を行うことができた。 □今後の展示企画等に対する継続的な研究・準備が必要である。

<p>③ 収蔵庫の整備と施設の計画的な改修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東蔵に棚を新設し、分散している資料の一括管理を実施するとともに、資料公開に向けての整備を図った。 ・計画的な改修を2項目実施すると共に、管理上不都合が出た項目を修繕した。 <p>(計画改修；エレベーター光電管修繕、貯湯槽置場漏水修繕 緊急修繕：電話交換機障害修理、ドアクローザー修繕、PC液晶ディスプレイ修繕、盤内屋外照明制御用タイマー交換修繕)</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○継続して東蔵の整備を行うとともに、リニューアルに向けて資料整備を進める。 ○今後の計画的な改修については、空調設備、中央監視盤、消火設備、リニューアル関連を予定している。 ○施設改修については、迅速な対応が功を奏し、開館をする上での問題は生じなかった。 □資料の整理及び収蔵庫等の整備を継続することが必要である。
--	-----------------	--

(3)教育委員による評価

①収蔵資料の整備・活用

<p>評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然史資料及び図書のデータベース整備が計画的に行われ、資料の研究と検索サービスの向上を図っている。 ・収蔵資料燻蒸を実施し、良好な保存に努力している。 ・大量のデータを電子化し、検索を容易にすることは、今後の有効活用につながる。 ・自然史資料や刊行物についてPC検索が可能となった。また、燻蒸の実施により、資料の保存状態の向上が期待できることなど一定の成果があった。 ・パソコン検索が可能となった。 ・以上のことからA評価は妥当である。
<p>改善事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旧吉田邸と郷土資料館の一体的リニューアルを目指して、資料の分析と整理・活用を行い、博物館サービスの向上に繋げていきたい。 ・貴重な資料を紹介すれば利用につながる。資料の活用につき、検討していく必要がある。

②展示・教育普及活動の充実

<p>評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・常に目新しい展示やイベントを考案し、実践していることは評価できる。また、継続的に実施されているワークショップを維持する努力も行われている。 ・例年より多くの企画展を開催したことで、入館者数が前年度比 15%増となったことは大変重要なことである。 ・企画の増加、入館者数の増加は評価できる。 ・企画展は大磯の歴史・文化・自然を題材として昨年度より多く、7 回開催し、又ワークショップは住民ニーズに応じて昨年同様の実施を継続していることは、地域の郷土資料館として充実した活動を展開しているといえる。 <p>・以上のことからA評価は妥当である。</p>
<p>改善事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町内外から情報を収集し、利用につながる展示やイベントを検討していくことが大切である。 ・今後の展示、企画等が内容あるものとして実施できるよう継続性も含めて研究やその準備が必要である。 ・魅力ある企画展を行うために、資料の研究と整理の継続が必要である。又、より多くの町民の来館を目指して郷土資料館の活動の周知にも努力したい。

③収蔵庫の整備と施設の計画的な改修

<p>評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の計画的な改修については、空調設備、中央監視盤等を予定しているが、資料整理が最も大切な事柄だけに、前向きに進んでいることに希望が持てる。 ・改修する必要箇所が多いので、計画的に順次取りくむことが必要である。 ・これまで課題であった分散資料の管理について、25 年度に一括管理が実施されたこと、計画的改修 2 項目を予定に沿って実施し、又、緊急修繕には速やかに対応している。 <p>・貴重な資料を維持管理するために必要な改善が行われている。</p> <p>・以上のことからB評価は妥当である。</p>
<p>改善事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リニューアルには改修も必要だが、電子化の促進、一元管理、リフォーム等の工夫も検討したい。 ・資料の整理や収蔵庫などの整備を継続することは当然である。また外部からの資料の請求に対し、十分対応できるように対処すべきである。 ・資料の整理保管は郷土資料館のテーマの一つであり、研究と利活用に向けて適切に管理するために、収蔵庫の整備の継続が必要である。 ・町民の生涯学習の場の一つとして快適な環境を確保するため、改修を計画的に実施する必要がある。

Ⅲ 資料編

1 関係法令

(1) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 27 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 3 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(2) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律について（通知）（抜粋）

（19 文科初第 535 号 平成 19 年 7 月 31 日 文部科学事務次官通知）

第一 改正法の概要

1 教育委員会の責任体制の明確化

(3) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととしたこと。点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有するものの知見の活用を図ることとしたこと。（法第 27 条）

第二 留意事項

1 教育委員会の責任体制の明確化

①今回の改正は、教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていく趣旨から行うものであること。

②現在、すでに各教育委員会において、教育に関する事務の管理及び執行の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を議会に報告するなどの取り組みを行っている場合は、その手法を活用しつつ、適切に対応すること。

③点検及び評価を行う際、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることについては、点検及び評価の客観性を確保するためのものであることを踏まえ、例えば、点検及び評価の方法や結果について学識経験者からの意見を聴取する機会を設けるなど、各教育委員会の判断で適切に対応すること。

2 「教育委員会定例会議事録」掲載ホームページアドレス

<http://www.town.oiso.kanagawa.jp/kosodate/kyouikuiinkai/1369189208249.html>

3 平成 25 年度 教育委員会基本方針

平成 25 年 3 月 25 日大磯町教育委員会第 12 回定例会で決定

大磯町教育委員会では、教育委員会の活動に対し、自らの点検・評価及び外部評価を実施し、その責任体制の明確化や体制の充実を図るとともに、地方教育行政の推進に努めてまいりました。

大磯町教育委員会は、幼稚園教育要領及び小・中学校学習指導要領の趣旨を十分に踏まえ、子育てから義務教育行政を一貫して実施していく体制をさらに強化する中で、学校関係者、保護者及び地域住民との連携を深めながら、様々な教育課題や子育て支援に関する課題に取り組みます。また、新たに策定した生涯学習推進計画に基づき、生涯学習の充実に努めるなど、教育委員会活動のさらなる活性化に向け努力していきます。

《義務教育の基本方針》

学習指導要領における「生きる力」の理念や「大磯町第四次総合計画」の「心豊かな人を育てるまちづくり」の趣旨を踏まえ、確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成、そして、自己の生き方を見つめ、新しい時代を自ら切り拓くことのできる人づくり等、信頼される学校づくりの実現を目指します。

〔目標〕

1. 各小・中学校では、学習指導要領に則った適切な教育課程を編成し、特色ある学校づくりに努めるとともに、人間として心豊かでたくましい児童・生徒の育成を目指します。
2. 学校、保護者、地域の方々と諸課題を共有しつつ協力体制を築き、これからの時代の要請に見合う大磯町にふさわしい教育活動の展開を図ります。
3. 「教職員としての使命の自覚」「教職員としての力量」を高めるために、教育研究所機能も活用し、研究・研修の機会や場を拡充します。さらに、異校種間連携や他市町との広域的な人事交流も推進します。

〔重点施策〕

1. 小学校・中学校
 - (1) 県教育委員会から「かながわ学びづくり推進地域研究事業」の委託を受け、各学校において、児童・生徒に基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うための実践研究・研修を実施します。
 - (2) 各学校において、ティームティーチング(*)や少人数指導、目標に準拠した評価等、指導法の工夫改善の研究に努めます。
 - (3) 小学校低学年において 35 人学級編制を実施します。また、中学校における生徒指導及び進路指導等の課題に対応するため、必要に応じ、35 人学級編制の実施を支援します。
 - (4) 幼児・児童・生徒の連続的な学びと成長を図るため、幼稚園・保育園と小学校及び小学校と中学校の連携を一層進めます。
 - (5) 教職員の専門性や指導力向上に向けた研修や電子黒板等 I C T(*)関連機器の積極的な活用についてさらに研修を深めます。併せて成績処理等における個人情報取り扱いに注意するなど、事故防止及び安全管理に努めます。

- (6) 各学校における「食育」を推進するため、大磯町で策定した「大磯町食育推進計画」を基に、食に関する指導を積極的に実践します。また、中学校給食については、大磯町立中学校給食に関する懇話会からの報告書に加え、生徒や町民の皆さんからの意見を参考に、引き続き検討を進めていきます。
- (7) 児童・生徒の実態に応じて教育支援員を配置するとともに、相談支援チーム体制を充実させ、支援教育の一層の推進を図ります。
- (8) いじめ・不登校をはじめとする様々な課題に対して、スクールアドバイザー(*)を中心に、各学校の教育相談コーディネーター、スクール・カウンセラー、心の教室相談員など相談支援チーム機能をさらに充実し、指導協力員(小・中・適応指導教室)による個別指導等の支援を強化して、ケースごとに対応し、教育相談及び児童生徒指導について一層の充実を図ります。
- (9) 学習指導要領の理念である生きる力を育むため、言語活動の充実を通し、教科等の目標が達成されるように、各学校での教科指導の工夫・改善を支援します。併せて、読書活動の充実を目指し、学校図書との連携と大磯町立図書館との連携を図ります。
- (10) 開かれた学校づくりを進めるため、学校とPTA・地域・関係諸機関との協議・連携を図り、地域の教育力を活かす学習活動を行うとともに、地震や津波などに対する防災対策や防犯・安全体制の一層の強化に努めます。
- (11) 児童・生徒の体力向上について、「大磯町学校教育における子どもの体力向上に向けた取組指針」に基づき、各学校で特色ある取り組みを推進します。
- (12) 大磯小学校体育館耐震補強・改修工事を実施します。
- (13) 国府小学校トイレ改修について、基本・実施設計を踏まえ、改修工事を実施します。

2. 教育研究所

- (1) 教職員の自主的な研修ならびに調査・研究の充実を図ります。
- (2) 教職員を対象に事例研究会や研修会を実施し、いじめや体罰等の問題の把握やその解決方法について研鑽を積み、より高い指導法を修得するなど、教職員の資質向上を図ります。
- (3) 教育研究所に配置しているスクールアドバイザー等の臨床心理士により、生活面や学習面で発達の・心理的・情緒的な問題を抱えている子ども達に対する支援を行い、その保護者や関係教職員に対する教育相談等を行います。
- (4) 教育研究の拠点となるよう書籍類、研究資料等の収集・整理及び各種広報活動を推進します。

《子育て支援の基本方針》

「安心して子どもを産み、育てられる子育て環境づくりの促進」、「家庭、地域、行政が連携し子どもを育てていく体制づくりの促進」、「多様な保育サービスなど子育て支援機能の充実」を基本方針とし、子ども達一人ひとりにはもとより、その保護者に対する子育て支援の充実を目指します。

〔目標〕

1. 幼稚園では、幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ、保護者や地域の方々との協力体制を築く中で、心豊かでたくましい園児の育成を目指します。
2. 保育園では、保育所保育指針の趣旨を踏まえ、子どもの年齢と成長に合わせた心豊かな子どもの育成を目指すとともに、適切な保育の実施を行います。
3. 幼稚園と保育園の交流を深め、就学前幼児の育成を見据えた中で、幼保連携を推進します。

4. 子育て支援サービスの充実を図り、身近な場所で子育て支援を受けられる「まち」を目指します。
また、家庭や地域の教育力を高め、子どもたちがいきいきと成長できる「まち」を目指します。
5. 保育園における待機児童の解消に向けた取組みを推進します。
6. 平成 27 年度の子ども・子育て支援法の本格施行を踏まえ、大磯町子ども・子育て支援事業計画策定の準備等を行います。

〔重点施策〕

1. 町立幼稚園では、教育支援員の配置や A E T (*) の派遣とともに、預かり保育を実施することで子育て支援を推進します。
2. 保育園では、引き続き、特別に支援が必要な園児への保育を実施するとともに、延長保育・一時保育・休日保育等の保育サービスの充実に努めます。
3. 大磯町で策定した「大磯町食育推進計画」を基に、町立幼稚園・保育園における「食育」を推進するとともに、保育園では、引き続き 3 歳児以上の完全給食を実施します。
4. 町立幼稚園・保育園内外の防犯・安全体制づくりを推進します。また、地震や津波などに対する防災対策の強化に努めます。
5. 民間保育所整備費の助成、私設保育施設及び家庭保育福祉事業への助成待機児童対策を検討し実施します。
6. 町立・私立幼稚園及び保育園から小学校へ円滑に移行できるように、幼稚園及び保育園が小学校と協力し、各種行事を共同で開催するなどにより連携を図ります。
7. 「放課後児童健全育成事業」の充実を図るとともに、「放課後児童健全育成事業」と「放課後子ども教室推進事業」の連携を強化する等、放課後子どもプランの拡充に向けた研究を進めます。
8. 横溝千鶴子記念子育て支援総合センターにおいて相談支援・つどいの広場機能及び子育て支援情報の提供を充実させるとともに、子育て講座や母親講座の充実も図ります。
東部つどいの広場を生涯学習館で週 2 回程度開設し、東部地区のつどいの広場の充実を図ります。
また、引き続きファミリーサポートセンター事業の実施により、子育て支援体制の強化を図ります。
療育相談については、今年度から子育て支援総合センターでの相談窓口の一本化を行い、関係機関と連携を図ります。
9. 平成 24 年度に私立こいそ幼稚園に入園した園児等の保護者に対し、引き続き保育料などの補助を行います。
10. 大磯町子ども・子育て支援事業計画策定のため、子ども・子育て会議の設置・運営とニーズ調査を行います。

《生涯学習の基本方針》

「生涯学習推進計画」のもと、町民一人ひとりが生涯にわたって、いつでも、どこでも、自由に学習機会を選択し、ともに学ぶことができ、また、町民が主体となった地域に根ざした文化・芸術活動が行われる環境整備を行い、成熟した生涯学習環境社会の実現を目指します。

〔目標〕

1. いつでも、どこでも、誰でも学ぶことができ、学びを通して、自らを高め、更に学びを地域に活かすことができる生涯学習のまちづくりを進めます。
2. とともに学びあうことで、コミュニティが充実し、人と人とのつながりが強くなる生涯学習のまち

づくりを目指します。

3. 町民の財産である文化財を収集・保存し、文化芸術活動への支援や町民の活動を推進することで、町民が郷土の素晴らしさを再認識できる生涯学習のまちづくりを進めます。

〔重点施策〕

1. 「大磯町生涯学習推進計画」を指針とした生涯学習を推進するため、また、事業の検証を行うとともに事業への要望や課題について議論するため、生涯学習推進会議を設置します。
2. 町民の主体的・自主的な活動への支援となる「生涯学習人材登録」と県生涯学習システム「PLANETかながわ」を活用した情報提供に努めます。
3. 課題や対象年代に応じた特色のある学習機会の提供を図ります。
4. P T Aや子ども会による家庭教育学級の開催支援や、ファミリー教室の開催の充実を図り、学校・家庭・地域との連携による生涯学習の推進に努めます。
5. 青少年指導員、P T A連絡協議会、その他関係団体と協力して、青少年の健全育成に努めます。
6. 芸術・文化の活性化を図るため、文化祭実行委員会との連携を図り、60回目を迎える「おおいそ文化祭」について、特色ある事業を開催します。
7. 社会教育施設（生涯学習館、図書館、郷土資料館）をはじめとした生涯学習関連施設・機関との連携を図り、生涯学習の推進に努めます。
8. 生涯学習館の耐震診断結果に基づき、使用者に安心・安全な環境を提供するための耐震防災工事設計を実施します。
9. 誰もがいきいきと暮らせるまちづくりのため、一人ひとりの人権意識を高めることのできる人権教育講演会の開催をはじめ、各種の学習機会を提供することで人権への理解を深めます。
10. 文化財資料等の保存・活用を図るため、調査等により蓄積された資料の整理を行なうとともに、文化財調査報告書第49集を刊行します。
11. 町内に所在する指定文化財等の候補について、情報の収集に努めるとともに、具体的な指定に向けて準備を進めます。
12. 文化財の保全を図るために定期的な巡回調査を行うとともに、文化財を火災から守るため、消防署等との連携による文化財防火巡回及び文化財消防訓練を実施します。

〈図書館の基本方針〉

幼児からお年寄りまであらゆる世代が豊かな心を養えるよう、興味や関心を満たす機会を提供する場とし、町民の学習活動の拠点となる「町民の書齋としての図書館」を目指して、図書利用サービスの向上を推進するとともに、生涯学習の充実に向けた支援に努めます。

〔目標〕

1. 多様化する町民ニーズに応える、豊かな心を養う「読書」が活用され、一層親しみを持って自主的な読書活動を行うことができるよう読書環境の整備に努めます。
2. 子どもたちが進んで読書活動を行うことができるよう学校図書館との連携を図り、「学びの場」として図書館が活用されるよう目指します。
3. 情報発信拠点としての図書館施設が老朽化しており、安心・安全に施設を利用できるよう施設整備を推進します。

〔重点施策〕

1. 高度化・多様化する町民ニーズに対応するため情報の収集に努め、蔵書・資料の整備を進めます。
2. ボランティア入門講座、児童文学講演会、ブックスタート(*)、ブックトーク(*)、ブックリストの作成、「読書の時間」(*)の推進など、子どもたちの読書・学習環境の整備を進めます。
3. 小学校4年生の学級招待、幼稚園及び保育園の図書館見学を実施し、図書館利用を体験することで豊富な本に出会い、図書館への関心、理解を深める活動を推進します。
4. 図書館は施設・整備が老朽化し、特に、空調関係の劣化が激しく、計画的な整備を進めます。

《郷土資料館の基本方針》

館のテーマである「湘南の丘陵と海」に基づき、資料の調査収集、整理保管、研究活用を進めるとともに、利用者や地域住民と一体となった活動を目指します。

〔目標〕

博物館サービスを向上させ、利用者にとって魅力があり、利用しやすい施設運営を目指します。

〔重点施策〕

1. 資料の収蔵スペースの確保や収蔵方法の刷新を進めるとともに燻蒸を実施し、資料を良好な状態で保存するためのより良い環境づくりに努めます。
2. 資料のデータベース化を進め、体系化することにより、資料活用の効率化を図ります。
3. 旧吉田茂邸再建と併せその利用方法を検討するため、(財)吉田茂国際基金から引き継いだ資料についての情報の整理を進めます。
4. 旧吉田茂邸再建後の相互連携による博物館活動を考慮しつつ、館の独自性や役割を明確化し、前年度に引き続き常設展示や設備のリニューアルを検討します。
5. 広報紙やインターネット等、多様な媒体を活用した広報活動に努め、全国に向けて館の活動内容や地域資料の情報提供を行います。
6. 地域の情報を幅広く且つ深く掘り下げる機会として、常設展示では取り扱っていないテーマに着目した企画展を開催するとともに、ワークショップを開催し、利用者や他施設との連携、協働による博物館活動を展開します。

なるような、図書の充実と啓発活動のこと。

平成 26 年度（平成 25 年度対象）

教育委員会点検・評価報告書

発行者 大磯町教育委員会

編集者 教育部 学校教育課

〒255-8555 大磯町東小磯 1 8 3

☎ : 0463-61-4100 / FAX : 0463-61-1991

ホームページアドレス

<http://www.town.oiso.kanagawa.jp/kosodate/kyouikuiinkai/index.html>

発行 平成 26 年 11 月